

県立考古博物館（仮称）先行ソフト事業実施報告書

平成14年度～平成16年度事業

平成18年3月

兵庫県教育委員会

目 次

事業実施に至る経緯

1 博物館計画の推進	1
2 県立考古博物館（仮称）基本計画の概要	2
3 先行ソフト事業の実施	3

事業の目的

1 基本方針	4
2 個別事業の目的	5

先行ソフト事業の実施結果	6
--------------	---

考古楽者養成事業

1 事業の概要	7
2 平成14年度の事業内容	10
3 平成15年度の事業内容	12
4 平成16年度の事業内容	16

地域文化財展

1 事業の概要	21
2 平成14年度「古代但馬の王墓」	23
3 平成15年度「邪馬台国への道のり」	28
4 平成16年度「発信する地域文化」	33

考古博物館先行展

1 事業の概要	38
2 平成15年度「体感！弥生時代」	39
3 平成16年度夏季先行展「私たちの由来」	42
4 平成16年度春季先行展「春の夜の夢のごとし」	45

地域文化財学習支援事業

1 事業の概要	50
2 平成15年度事業	51
3 平成16年度事業	55

事業結果の総括

1 事業の効果	59
2 展示評価	61
3 ソフト事業における今後の課題	67

凡 例

- 1 本書は平成14年度、15年度、16年度の3ヶ年にわたって実施した県立考古博物館（仮称）先行ソフト事業の実施報告書である。
- 2 事業の一部については国庫補助事業として実施している。
- 3 事業は兵庫県教育委員会文化財室と同埋蔵文化財調査事務所が計画し、事業の実施は主に埋蔵文化財調査事務所がおこなった。
- 4 本報告書の編集は兵庫県教育委員会文化財室がおこなった。

事業実施に至る経緯

1 博物館計画の推進

平成5年12月に兵庫県文化財保護審議会から、埋蔵文化財発掘調査成果の公開・展示を積極的に進める必要があるとの中間報告があり、これをうけて平成11年度から「県立考古博物館（仮称）基本構想検討委員会」を設置し、遺跡や遺物を活用して「こころ豊かな人づくり」を実現するための方策の検討をおこなった。平成12年10月には同審議会から、『次世代への継承と新しい文化の創造のために - 21世紀における兵庫県の文化財行政について -』が建議され、この中で埋蔵文化財の積極的な活用を図るための拠点として考古博物館の早期整備の必要性が説かれた。

基本構想検討委員会では平成13年度まで検討をおこない、県民から求められる博物館像が従来の公開・展示重視型から、生涯学習・学校教育へ貢献するソフト重視型に変化していることを踏まえ、新しい博物館は県立史跡公園である「播磨大中国古代の村」（加古郡播磨町大中）と一体に整備し、考古資料を活用して県民に歴史学習の場を提供する体験型の施設とするのが望ましいとの基本的な考えに至った。平成14年度には「県立考古博物館（仮称）基本構想策定委員会」を設置するとともに、展示・施設・事業の内容について検討をおこなうワーキングを開催し、博物館の施設、展示、事業について基本構想をまとめた。また同時に文化財全体を活用する新たな枠組みを検討する「歴史文化遺産活用構想検討会」を開催し、基本構想にその検討結果を反映させている。

平成15年度にはこれをうけて「県立考古博物館（仮称）基本計画策定委員会」を設置し、より具体的かつ詳細な検討をおこなうとともに、県民の参加・体験を重視した新しいスタイルの博物館をめざし、利用者本位の博物館づくりを進めるため、企画段階評価を実施し、その結果を反映した基本計画をまとめた。また同年度には、博物館開館にあわせて史跡公園「播磨大中国古代の村」の再整備をおこなうために、「史跡大中遺跡環境整備検討会」を開催し、環境整備基本計画をまとめた。

平成16年度はこれらの計画をふまえて、建築設計、展示設計、環境整備設計をおこない、参加体験型博物館のコンセプトを実現するための施設面の整備に着手した。平成

17年度からは、建築工事、展示工事、環境整備工事に着手し、平成19年秋の開館をめざして工事を進めるとともに、「県立考古博物館（仮称）事業計画策定委員会」を開催して、先行ソフト事業の実施結果をふまえて開館後に実施する事業内容の検討を進めている。



図 - 1 建築パース図



図 - 2 展示パース図

2 県立考古博物館（仮称）基本計画の概要

（1）基本理念

県立考古博物館（仮称）（以下「考古博物館」という）は、県民が本物の遺跡・遺物にふれることによって得た、先人たちの「知恵」と「生きる力」への「驚き・発見・感動」を身近な歴史文化遺産への関心へと結びつけ、地域文化を再発見するきっかけをつくり、地域文化に根ざし、愛着と誇りがもてる21世紀における新たな「ひょうご文化」の創造に寄与することを基本理念とする。

（2）整備方針

考古博物館の整備は、単なる施設としての博物館づくりではなく、施設を核とした歴史文化遺産活用の新たなシステムづくりを目的とする。すなわち県民が地域の歴史文化遺産への理解を深め、地域文化への愛着と誇りを高めるきっかけをつくり、さらに地域において歴史文化遺産の保護活用の主役として活動をおこない、地域の活性化に貢献できるシステムの構築を目指すものであり、考古博物館はそのシステムの埋蔵文化財分野における兵庫県の中核施設として整備する。

このため「ネットワーク」「体験・思考」「変化・成長」をキーワードに、県民の思いや願いを十分に汲み取って、従来の博物館の概念を超える21世紀にふさわしい新しいスタイルの博物館を創造する。

（3）役割

県立考古博物館は以下の5つの役割を果たす。

「見る・試す・感じる」- 体感できる博物館 -

「学ぶ・考える」- 学べる博物館 -

「行く・見つける」- 「現場」へと誘う博物館 -

「調べる・創る」- 探究する博物館 -

「結ぶ・広げる・支える」- 県下全域で活動する博物館 -

（4）事業活動計画

展示事業

兵庫県の地域文化の特色を物語性豊かに伝えるときともに、歴史の謎解きの楽しさに満ちた考古学の魅力や考古学研究の最前線を伝える。

体験学習事業

さまざまな年齢層や学習ニーズ、参加形態に対応した「古代体験」「考古学体験」プログラムを企画・実施する。

学習支援事業

「生涯学習」と「学校教育」の支援を軸に、多様な学習

機会の提供と県民の主体的な学習活動の支援・振興、学校教育への支援をおこなう。

調査研究事業

地域文化の成り立ちを解明し、新たな地域像を創りだすため、総合的・学際的な体制による調査研究を推進し、その成果を発信・活用する。

収集保存事業

兵庫県における考古資料センターとして、県内各地から出土した考古資料を系統的に収集し、適切に保存・管理する。

史跡公園・資料館等ネットワーク事業

史跡公園・遺跡を博物館のサテライトと位置づけ、館外活動の拠点とするほか、県内外の資料館等との連携・協力体制を構築する。

その他の事業

博物館の活動等を県民や国内外にアピールする「広報・情報発信事業」、博物館の魅力を増幅する「ショップ・カフェ事業」等を展開する。

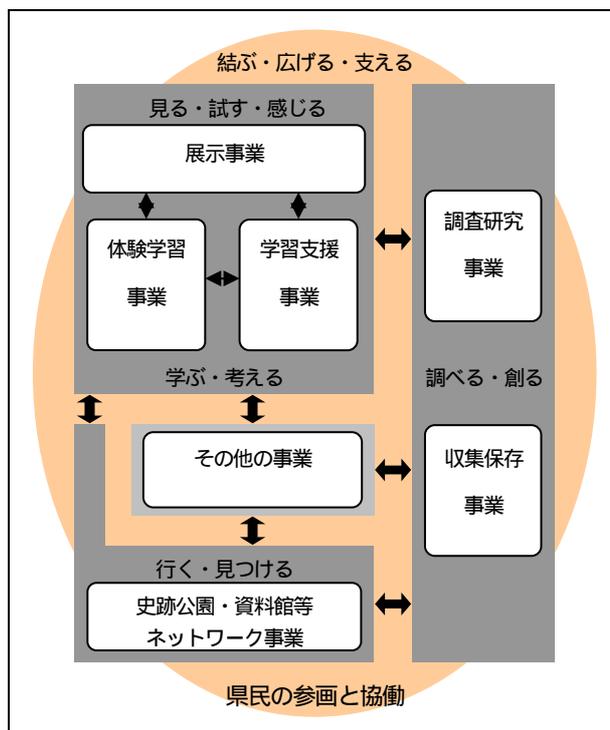


図 - 3 県立考古博物館（仮称）の事業展開概念図

3 先行ソフト事業の実施

博物館の整備計画を進めるとともに、博物館整備への機運を高めるために平成 11 年度から博物館整備予定地の播磨町において、播磨町教育委員会・播磨町郷土資料館と共催で展示会を開催した。また播磨町郷土資料館が実施する事業に県教委職員を派遣するなどの支援を開始した。

平成 12 年度には、先行ソフト事業開発の一環として文部科学省の委嘱事業「ふるさと文化活動継承支援事業 - 東播磨ふるさと歴史楽習 - 」を東播磨 2 市 2 町（加古川市・高砂市・播磨町・稲美町）と協力して実施し、体験学習やボランティア養成などの事業を実施した。

平成 14 年度からはこれらの実績をふまえて、基本構想の策定と併行して本格的に「県立考古博物館（仮称）先行ソフト事業」のタイトルを掲げて、博物館整備の PR とソフト事業開発を兼ねた事業を開始した。平成 14 年度はまず、「参加体験型」博物館に向けた具体的実践として、将来の博物館ボランティアを育成するための「“考古楽者”養成事業」を開始し、人材を育成するとともに、開館後に展開するソフト事業の開発をおこなっていくための体制の整備をめざした。また同年度には、「ネットワーク型」

博物館に向けた具体的実践として、県内市町と共同で展示・シンポジウムなどをおこなう「地域文化財展」にも着手し、第 1 回目の事業として、発掘調査中であった「茶すり山古墳」の発掘調査成果を中心に和田山町との共催で「古代但馬の王墓」を開催した。

続く平成 15 年度からは、事業をさらに拡充し、考古博物館の展示コンセプトを先行的に実施し展示開発をおこなう「考古博物館先行展」を開始し、第 1 回の展示会として「体感！弥生時代」を開催した。また学校教育との連携をはかるため、教員に対して体験学習の指導をおこなうとともに共同でプログラムの開発をおこなう「地域文化財学習支援事業」にも着手し、体験学習交流会「大中遺跡メッセ」を開催した。その後、平成 16 年度には「考古博物館先行展」の開催を年 2 回とするなど事業内容の充実をはかった。平成 17 年度から従来の地域文化財展・考古博物館先行展・地域文化財学習支援事業を再編し、「考古博物館ネットワーク推進事業」として、地域文化財展・先行展の事業内容をさらに充実させ、県内市町との連携の強化を図って現在に至っている。

表 - 1 事業の展開

	11 年	12 年	13 年	14 年	15 年	16 年	17 年	18 年	19 年
基本構想				策定					
基本計画					策定				
設計						設計			
工事									
東播磨ふるさと歴史楽習 特別展「埋もれた兵庫の遺宝」									
考古楽者養成事業									
地域文化財展				但馬	播磨	神戸・阪神	淡路	丹波	
考古博物館先行展									
地域文化財学習支援事業									
事業計画策定委員会									
開館記念事業									

事業の目的

1 基本方針

(1) 先行ソフト事業の位置づけ

従来、博物館など施設の整備に際してはハードの整備が先行し、これを運営する人材の育成やソフト事業は机上での計画に止まり、実践は施設の開館後に行われることが多かった。しかし博物館は展示や様々な学習など、ソフト事業を展開するための「箱」であり、そこでどのようなソフト事業が行われているかが、施設の魅力を定める大きな要因となる。考古博物館では、何よりもソフト事業重視を館の基本コンセプトとしており、開館時に質の高い完成されたソフト事業を利用者に提供していきたいと考えている。

このため考古博物館の開館までの間、博物館の活動内容を事前に県民に周知し、博物館への関心を高めてもらう。

博物館運営への県民の参画を促進するために人材育成をおこなう。開館後に展開するソフト事業の試行をおこない良質なソフト事業を開発する、以上3つの目標を掲げて先行ソフト事業を実施することにした。

(2) PRとしての先行ソフト事業

考古博物館の場合、基本構想を策定し事業着手を県民に公表してから開館まで5年の期間があったため、平成17年度の建設工事開始までの3年間については、事業の進捗状況についての情報を県民に伝える機会及び手段が必要であった。特に建設予定地である播磨町周辺では、地元への期待が高まっており、その期待に応えるため博物館整備事業の進捗をPRすることが必要であった。また博物館の将来の利用者は、その地理的な制約から東播磨地区が中心となるが見込まれることもあり、先行ソフト事業は、博物館建設予定地である播磨町の大中遺跡周辺を拠点として実施した。

しかし兵庫県は県域が広大であるため、東播磨地区で整備が進められている考古博物館への関心については地域的な温度差の存在が避けられない。このため県内全域で考古博物館のPRをおこなうことが必要であった。地域文化財展やその発展である考古博物館ネットワーク推進事業は、拠点である大中遺跡を離れ、県内市町と共同事業を実施した。

このように県立考古博物館のPRは 東播磨地区に重

点を置く 県内全域で広く情報を発信する、というふたつの方向で進めており、先行ソフト事業についても、それぞれの事業の性格により、このいずれかを指向している。

(3) 人材育成としての先行ソフト事業

兵庫県では「県民の参画と協働」を県政の基本方針として掲げており、県教育委員会では平成14年度に策定した「歴史文化遺産活用構想(素案)」の中で、地域住民が主体となって歴史文化遺産を活用・継承していくことを施策の目的として掲げている。

考古博物館についても、設置の目的として地域住民主体の埋蔵文化財保護活用の仕組みづくりを掲げており、その実践として博物館の整備から運営までの各過程に県民が参画できる仕組みをつくることとした。博物館事業への参画のためには、相当程度の専門的な知識や技術が必要とされるため、博物館開館前から積極的に人材を育成するための事業を開始した。

また開館後は学校団体の利用が大きな比重を占めることが予想されることから、学校教育との連携を重視しており、このため教員の中に考古学や博物館に関する専門的知識を持った人材の育成もおこなった。

このように先行ソフト事業は、人材育成を通じて博物館整備へ県民が参画するための機会づくりでもある。

(4) 試行としての先行ソフト事業

考古博物館では開館時に良質なソフト事業を提供できるように、基本計画策定時に「企画段階評価」を実施して、一般の人たちの考古学や遺跡に関する興味や知識について調査をおこない、これをメニュー開発に反映させた。また先行ソフト事業を通じて各種のメニューを試行し、アンケート調査やインタビュー調査などでその評価をおこない、次回の事業に反映させるように心がけてきた。このような積み重ねによって得られた知識や経験に基づき、各種のメニューの開発を進めることにより、開館時に良質なソフト事業を県民に提供することをめざしている。

2 個別事業の目的

先行ソフト事業の各事業は基本計画で定めた「事業活動計画」の先行的な実践であり、その関係は以下のとおりである。

表 -1 基本計画における事業活動計画と先行ソフト事業の関係

先行ソフト事業 基本計画の項目	考古楽者養成事業	地域文化財展	考古博物館先行展	地域文化財学習支援事業
展示事業		地域の埋蔵文化財の展示公開	兵庫県の特色を示す埋蔵文化財の展示公開 展示手法の開発	
体験学習事業	体験学習のメニューの開発	地域の個性を生かした体験学習の実施	展示テーマに関係した体験学習メニューの開発・実施	体験学習の試行・技術開発 体験学習の普及
学習支援事業	博物館ボランティアの養成	ボランティアの養成	講座・シンポジウム等の実施	教員を対象とした人材育成 学校とのネットワーク構築
調査研究事業	史跡大中遺跡再整備のための発掘調査	地域の埋蔵文化財の価値の再評価	兵庫県の地域的特色の評価	
収集保存事業		地域に埋もれた重要資料の掘り出し		
史跡公園・資料館等ネットワーク事業	史跡大中遺跡の活用	県内市町、資料館とのネットワーク構築 地域の史跡の活用		
広報・情報発信事業	博物館整備のPR	博物館整備のPR	博物館整備のPR	博物館整備のPR

表 -2 各事業の目的

	博物館整備のPR	人材育成	事業の試行
考古楽者養成事業	(東播磨地区対象)	(博物館ボランティア)	
地域文化財展	(全県対象)	(地域の文化財ボランティア)	
考古博物館先行展	(東播磨地区対象)		
地域文化財学習支援事業	(学校対象)	(教員対象)	

先行ソフト事業の実施結果

1 考古楽者養成事業

年度	事業期間	事業実施場所	受講者数(人)	修了者数(人)
H14	H14・6・1～H15・2・9	播磨町中央公民館ほか	25	25
H15	H15・5・24～H16・2・21	播磨町中央公民館ほか	25	25
H16	H16・5・22～H17・2・26	播磨町中央公民館ほか	30	30

2 考古博物館先行展

展示会

年度	テーマ	会期	会場	入場者(人)
H15	体感! 弥生時代	H15・7・12～9・7	播磨町郷土資料館	12,000
H16 夏季	私たちの由来 - 明石人から現代人まで -	H16・7・17～9・5	播磨町郷土資料館	11,135
H16 春季	春の夜の夢のごとし - 平清盛と福原京の考古学 -	H17・2・19～3・21	播磨町郷土資料館	5,794

講座・シンポジウム

年度	テーマ	開催日時	会場	入場者(人)
H15	フォーラム 体感! 弥生時代	H15・8・31	播磨町中央公民館	78
H16 夏季	考古人類学教室(3回)	H16・7・31～8・21	播磨町中央公民館	222
H16 春季	シンポジウム「福原(和田)京」の謎を解く	H17・3・13	播磨町中央公民館	160

3 地域文化財展

展示会

年度	テーマ	会期	会場	入場者(人)
H14	古代但馬の王墓	H14・8・13～9・8	和田山町駅前展示館	2,462
H15	邪馬台国への道のり	H15・11・1～11・16	新宮町立町民スポーツセンター	2,500
H16	発信する地域文化	H17・1・16～2・20	神戸市立博物館	9,638

講座・シンポジウム

年度	テーマ	開催日	会場	入場者(人)
H14	シンポジウム 古代但馬の王墓をめぐって	H14・9・1	和田山町文化会館	325
H15	シンポジウム 考古学から見た邪馬台国への道のり	H15・11・15	新宮町立総合福祉会館	200
H16	講演会 震災後の新たなまちづくりと遺跡調査	H17・1・16	神戸市立博物館	120
	シンポジウム 震災が明らかにした兵庫の歴史	H17・1・29	神戸市立博物館	180

4 地域文化財学習支援事業

年度	事業名	開催日	開催場所	参加者数(人)
H15	大中遺跡メッセ	H15・5・10～5・11	播磨大中古代の村他	161
H16	大中遺跡メッセ	H16・8・18～8・19	播磨大中古代の村他	104

考古楽者養成事業

1 事業概要

(1) 事業の趣旨

考古楽者(こうこがくしゃ)養成事業は、大中遺跡の発掘調査への参加などを通じて将来の博物館支援ボランティアを育成するとともに、育成した人材とともに新しい体験学習プログラムの開発をおこなうことを目的とした事業である。この事業で育成しようとしている人材は、従来の展示解説や館内雑務に従事するボランティアではなく、兵庫県の県政の基本施策である「参画と協働」を実践する、より高度な人材である。

具体的には、ここで養成された人材は単に考古博物館のボランティアとして活躍を期待されるだけではなく、その居住地域においては地域の歴史文化遺産を保護活用するリーダーとしての役割が期待され、また地域住民と考古博物館を結びつける役割も期待される。またボランティア活動は個人の趣味や生きがいの延長にあるべきとの考えから、博物館活動とは直接関係しない個人的な活動を積極的におこなうことも期待される。個人としての主体性を持って自立した活動をおこないながら、その能力の一部を博物館ボランティアとして提供してもらえらる人材、というのが“考古楽者”に期待する人物像である。

このため受講者に対して講座・体験など多様な学習メニューを提供し、その中から自分の興味と合致し、その能力を最大限に生かせる分野を見つけ、能力の向上にはげんでもらえるように考慮した。単純に労働提供・奉仕活動にやりがいを見いだすのもよし、考古学の知識を深め人に伝えるのもよし、身につけた技術を体験学習の中で活かすものよし、“考古楽者”には決まったスタイルはなく、受講した成果をどう生かすかはそれぞれの個人に任せることにしている。発掘調査を埋蔵文化財行政が独占することにより、学問としての活力を失いつつある考古学の現状を反省し、「生涯学習としての考古学」という新しい地平を切り開くことが、この事業の真の目的である。

この趣旨にもとづき、考古博物館の開館後の“考古楽者”と博物館の関係は、連携をはかり協力して博物館の運営をおこなう「パートナー」であることを目指してい

る。博物館への依存を減らし、自主的な活動をおこなうことができるような関係としては、将来的に考古楽者がNPO法人などの独立した組織をつくり、博物館と対等な立場で契約に基づき活動することも視野に入れて、事業を実施している。

(2) 事業の経緯

考古楽者養成事業は、県立考古博物館(仮称)の最初の先行ソフト事業として平成14年度に着手した。この事業は5年間で100名の考古博物館支援ボランティア“考古楽者”を養成することを目的としたものであり、受講者の8割程度が修了するとの見込みにより、年間25名を対象に事業を実施した。平成14年度は初年度ということもあり、カリキュラムの作成や受講者への対応など、試行錯誤の連続であった。平成14年度末にはじめての修了者“考古楽者”を送りだし、翌年度からはセミナーの開催とともに、修了者への活動支援もおこなった。平成15年度からは考古博物館先行展や地域文化財展に考古楽者が参加するようになり、新しい体験学習メニューの開発なども積極的におこなった。

平成15年度は埋蔵文化財調査事務所魚住分館内に「ボランティアルーム」を開設し、受講生や考古楽者が常に活動できる場を確保し、修了生の活動を支援する体制を整えた。平成16年度からは「公開講座」として、セミナーの一部を受講生以外にも開放している。

(3) 事業内容

本事業では、セミナーや史跡大中遺跡の発掘調査を通じて、県立考古博物館支援ボランティア“考古楽者”を養成し、その活動を支援しながら、ともに将来博物館で実施する事業メニューの開発をおこなう。

この事業は受講者に様々な学びの機会を提供し、その中から各自の指向に合った分野を見つけさらに深めてもらう、という趣旨のもとに実施しており、セミナーや発掘調査への参加は必修とはしていない。あくまで受講者の生活スタイル、体力、指向等の個別事情にあわせての参加を前提としている。このためセミナーに参加した受講者全員に対し、本人からの辞退が無い限り、修了証書を交付し、“考古楽者”として認定している。“考古楽

者”は博物館活動や発掘調査に参加するための「資格」ではなく、自己実現に努める人々が誇りを持って活動するための「称号」であり、セミナー終了後の活動についても、各自の自発的意志にゆだねることを基本方針としている。

“考古楽者”養成セミナー

考古学や文化財に関する講義、体験学習、実習により、考古博物館のボランティアとしてまた地域の歴史文化遺産を活用するリーダーとして活躍できる人材を育成する。

大中遺跡発掘調査

考古楽者養成セミナーの一環として、セミナー受講者が参加して大中遺跡の発掘調査を実施した。この調査は史跡大中遺跡（播磨大中国古代の村）の内容確認調査を目的とするものである。現状変更を厳しく制限されている国史跡の発掘調査であるため、参加者に対しては事前に考古学や発掘調査についての講習をおこない、さらに調査にあたっては県教育委員会職員や熟練した調査補助員・作業員が作業方法についてマンツーマンで指導をおこなった。これにより調査参加者は平均的な発掘作業員以上の技術を身につけることができ、調査精度については十分に確保できていると考えている。

考古楽者活動支援

養成した考古楽者の活動を支援しながら、ともに将来の考古博物館で展開する事業メニューを開発するため、活動場所の提供、活動機会の提供、学習資料の提供、学習機会の提供、事業メニュー開発を実施する。

(4) 受講者について

考古楽者養成事業は受講資格は高校生以上の全ての年齢層を対象としているが、これまでの実績では40代～60代の受講者が多い。また全県対象の事業であり、受講者は県内全域から募集しているが、その居住地は圧倒的に東播磨地区が多い。年齢的に高い年代が多数を占めるのは、男性では会社等での定年後の、女性では子育て等を終えた後の生きがいづくりに講座の受講を希望する人が多いことを示している。また居住地の偏りは、セミナー会場が播磨町であり、受講のために2週に一度通うことが可能な範囲が播磨町から約1時間圏内であることを示している。

受講希望者数は年々増加しており、抽選に漏れたため

繰り返し応募している希望者が多く存在する。受講希望をなるべくかなえるために、応募回数に応じて当選率を高めることにより、希望にこたえるべく努力している。

表 -1 応募者数の変遷

	14年度	15年度	16年度	合計
人数	94	107	124	325

表 -2 年度毎の受講者内訳

		H14	H15	H16	合計
受講者数		25	25	30	80
年齢構成	20代	3	1	1	5
	30代	5	3	4	12
	40代	8	8	2	18
	50代	9	5	11	25
	60代	0	7	8	15
	70代	0	1	4	5
考古楽倶楽部参加者数		18	23	27	68

表 -3 受講者の居住地

	14年度	15年度	16年度	合計
阪神北地区	2			2
伊丹市	(1)			(1)
川西市	(1)			(1)
阪神南地区		1	1	2
尼崎市		(1)	(1)	(1)
西宮市				(1)
神戸地区	6	8	11	25
神戸市	(6)	(8)	(11)	(25)
東播磨地区	13	12	11	36
明石市	(1)	(4)	(3)	(8)
播磨町	(3)		(3)	(6)
稲美町	(1)			(1)
加古川市	(7)	(7)	(4)	(18)
高砂市	(1)	(1)	(1)	(3)
北播磨地区	2		2	4
三木市	(1)		(2)	(3)
西脇市	(1)			(1)
中播磨地区	2	3	5	10
姫路市	(2)	(2)	(5)	(9)
福崎町		(1)		(1)
淡路地区		1		1
淡路市		(1)		(1)

(5) 考古楽者の活動

平成14年から現在(平成17年)まで、3期にわたって合計80人のセミナー修了者「考古楽者」を送り出した。この修了生を考古博物館開館までの間、どのように支援していくのが当初からの課題であった。平成14年度の初年度のセミナーでは、受講者に対して博物館と対等な関係を持ったボランティアを目指すべきことを意識づけることを心がけ、考古楽者は、セミナー終了後

の活動を円滑に進めるため、自主的に「考古楽倶楽部」を結成し自主的な活動を開始した。

考古楽倶楽部では、県教育委員会の主催事業だけでなく、近隣市町教委や学校主催の体験学習などの事業に、講師・支援ボランティアとして参画しており、兵庫県内における古代体験の普及に大きな貢献をしている。

-4 考古楽倶楽部の活動

開催日	活動内容
15年度	
5月11日	大中遺跡メッセ フェスティバル
7月8日	先行展「体感!弥生時代」展示
7月19日	播磨町郷土資料館「土器づくり」
7月20日	播磨町郷土資料館「土器づくり」
7月27日	先行展ワークショップ「スタンプラリー」
9月13日	考古楽者養成セミナー「まが玉づくり」
9月20日	北淡町古代体験教室「ろう鐸づくり」
10月28日	播磨小学校「総合学習」土器焼き
10月29日	播磨小学校「総合学習」窯だし
11月2日	新宮宮内弥生フェスタ
11月26日	播磨小学校「総合学習」古代食
12月6日	播磨町郷土資料館「古代食づくり」
2月1日	播磨町郷土資料館「はにわづくり」
2月11日	播磨小学校「まが玉づくり」
16年度	
5月29日	播磨町郷土資料館「石器づくり」
5月30日	播磨町郷土資料館「石器づくり」
6月12日	播磨町郷土資料館「まが玉づくり」
6月13日	播磨町郷土資料館「まが玉づくり」
6月16日	播磨小学校「総合学習」火おこし
7月11日	播磨町郷土資料館「土器づくり」
7月13日	先行展「私たちの由来」展示
8月7日	大中遺跡まつり「スタンプラリー」
8月10日	先行展ワークショップ「弥生クイズラリー」
8月19日	大中遺跡メッセ フェスティバル
8月28日	播磨町郷土資料館「土器焼き」
8月29日	播磨町郷土資料館「窯だし」
8月29日	先行展ワークショップ「弥生クイズラリー」
9月9日	播磨小学校「総合学習」土器づくり
9月11日	考古楽者養成セミナー「まが玉づくり」
9月20日	播磨町郷土資料館「織姫になろう」
9月25日	北淡町古代体験教室「ろう鐸づくり」
10月7日	中学校社会科教育講座「火おこし」
10月9日	考古楽者養成セミナー「石器づくり」
10月11日	播磨町郷土資料館「ろう鐸をつくろう」
10月23日	考古楽者養成セミナー「ろう鐸づくり」
10月27日	播磨小学校「総合学習」土器焼き
10月28日	播磨小学校「総合学習」窯だし
11月6日	考古楽祭「ろう鐸づくり」
11月14日	ひとはくフェスティバル「ろう鐸づくり」
11月21日	播磨町郷土資料館「ろう鐸をつくろう」
2月7日	岩岡小学校4年「火おこし」
2月9日	岩岡小学校4年「火おこし」
2月14日	岩岡小学校4年「火おこし」
2月15日	先行展「春の夜の夢のごとし」展示
2月16日	岩岡小学校4年「火おこし」
2月18日	岩岡小学校4年「火おこし」
2月19日	先行展ワークショップ「瓦づくり・瓦あわせ・拓本」
2月21日	播磨小学校「総合学習」石器のちから
3月26日	土器焼成実験



図 -1 北淡町古代体験教室



図 -2 ひと博フェスティバル(ろう鐸)



図 -3 播磨小学校総合学習土器焼き

2 平成14年度の事業内容

平成14年度は5月9日(木)に教育委員会記者クラブで発表をおこない、5月13日(月)～5月20日(月)の期間に申し込み受付をおこなった。募集25名に対し、94名の応募があったため、5月23日(木)に抽選をおこない、受講者を決定した。

(1) “考古楽者”養成セミナー

6月15日～2月9日の期間に下記プログラムでセミナーを開催した。



図 -4 セミナー講義風景

表 -5 平成14年度セミナープログラム

考古楽講座

	題名・講師	日時・会場	内容
1	開講式・オリエンテーション	6月15日(土) 播磨町中央公民館	担当者による趣旨・スケジュールの説明。受講者の自己紹介などをおこなう。
2	考古楽へのいざない 埋蔵文化財調査事務所 種定淳介	6月22日(土) 播磨町郷土資料館	考古学の特質とその方法論についてわかりやすく解説する。
3	考古学の楽しみ(1) - 発掘調査の方法と目的 - 埋蔵文化財調査事務所 種定淳介	6月15日(土) 播磨町中央公民館	遺跡の発掘調査の目的と方法についてわかりやすく解説する。
4	考古学の楽しみ(2) - 弥生時代の基礎知識 - 埋蔵文化財調査事務所 種定淳介	7月6日(土) 播磨町郷土資料館	米と金属と戦いをキーワードとする弥生時代論の概説をおこなう。
5	考古学の楽しみ(3) - いろいろな遺跡 - 埋蔵文化財調査事務所 種定淳介	7月22日(月) 播磨町中央公民館	さまざまな種類の遺跡の特徴とその調査方法を解説する。
6	大中遺跡の話 埋蔵文化財調査事務所 池田正男	8月3日(土) 播磨町中央公民館	大中遺跡の発見から調査と整備にいたる歴史について解説する。
7	弥生土器を探る 文化財室 多賀茂治	9月7日(土) 播磨町郷土資料館	弥生土器の特徴と時間の物差しとしての土器編年について解説する。
8	東播磨の考古学 埋蔵文化財調査事務所 大平 茂	10月5日(土) 播磨町中央公民館	加古川流域の旧石器時代から中世までの変遷を具体的に解説する。
9	加古川の舟運 県立歴史博物館 松井良祐	10月12日(土) 播磨町中央公民館	加古川を中心として展開される近世の交通史を平易に解説する。
10	博物館とボランティア活動 県立人と自然の博物館 横山真弓 NOP 法人人と自然の会 清水文美	11月9日(土) 播磨町中央公民館	博物館活動を通じたボランティア活動の可能性を実践者の体験談を交えながら解説する。
11	文化財の保護と活用 文化財室 山下史朗	12月21日(土) 播磨町中央公民館	地域の文化財を次世代に伝え、現代に活かす方法やその意義を解説する。
12	セミナーを振り返って	1月26日(土) 播磨町中央公民館	自発的な討論会を開き、1年間の成果を検証し今後の展望を語る。
13	修了式・閉講式	2月9日(土) 播磨町中央公民館	修了証の交付をおこなう。

考古楽実習

	題名・講師	日時・会場	内容
1	発掘調査実習	7月～10月 大中遺跡	国指定史跡大中遺跡の発掘調査に参加する。
2	遺物整理実習	10月～2月 魚住分館	大中遺跡の発掘によって出土した遺物の整理・復元などをおこなう。

考古楽体験

	題名・講師	日時・会場	内容
1	古代の勾玉をつくる 埋蔵文化財調査事務所 鈴木敬二	8月31日(土) 播磨町郷土資料館	古代の首飾り「勾玉」をつくる。
2	古代の石器をつくる 埋蔵文化財調査事務所 藤田 淳	9月14日(土) 播磨町郷土資料館	古代人になりきって石器をつくる。
3	遺跡を見る 石守麿寺(加古川市)	10月25日(金)	古代寺院「石守麿寺」の発掘調査現場を見学する。
4	遺跡を見る 神出窯跡群(神戸市西区)	12月2日(月)	平安時代の須恵器窯「神出窯跡群」を見学する。
5	博物館を見る 県立人と自然の博物館	11月3日(土)	博物館の見学と人と自然の会のイベントの視察。
6	博物館を見る 県立歴史博物館	11月23日(日)	特別展「古代兵庫への旅」の見学とボランティア活動の視察。

(2) 大中遺跡発掘調査

平成14年度は大中遺跡の第19次調査として、下記のとおり調査を実施した。

調査場所 加古郡播磨町大中字大増 405-2・405-3・405-4・405-6・406・407・411・432

調査主体 兵庫県教育委員会

調査の種類 確認調査

調査期間 平成14年7月9日～10月4日

調査担当者

兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所

普及班 主査 種定淳介

調査面積 528㎡

調査目的 史跡大中遺跡環境整備に先立つ史跡の内容確認のため。

調査の方法

これまで未調査であった範囲で発掘調査を実施して、住居跡以外の遺構の存在を確認し、さらに遺構の細部にわたる情報の収集を図る。調査対象範囲を周囲の水田地割の基軸に沿って、基準のコンクリート杭から20m方眼のグリッドに区切り、各グリッド内に10m×2mのトレンチを東西南北方向に各1カ所設定した。調査面積は調査対象範囲の10%である。

バックホーで盛土を除去した後に、人力で包含層掘削、遺構検出をおこなった。

調査の成果

19カ所のトレンチを調査して、弥生時代後期～終末期の竪穴住居5棟と溝、土坑などを検出した。竪穴住居は円形4本柱ベッド付のSH1901、方形4本柱ベッド付から2度の建て替えを経て五角形5本柱ベッド付のSH1902など、これまでの調査と同様に多様な形態の竪穴住居を確認したが、当初の目的であった竪穴住居以外の遺構の発見についてはめぼしい成果はなかった。

発掘現場の公開

調査中は常時発掘現場を開放し、見学者には大中遺跡の発見と保存の意義、発掘調査の方法と目的、遺跡公園の活用と将来の考古博物館の整備について説明した。また調査開始から終了まで「大中遺跡発掘調査ニュース」を10号まで刊行し、見学者に配布した。見学者の数は記名のあっただけで1,000名を超えてい

る。また8月10日には現地説明会を実施して、約100名の参加者に遺跡の調査成果について説明した。

整理作業

調査終了後、埋蔵文化財調査事務所職員の指導により考古楽者養成セミナー参加者によって、出土遺物の水洗い、ネーミング、接合、復元を実施した。復元した資料は、平成15年度の考古博物館先行展「体感！弥生時代」において展示コーナーを設けて展示した。

考古楽者養成セミナー受講者の参加

調査には考古楽者養成セミナー受講者が実習として参加した。受講者の参加の便を考慮して、土曜日を作業日として設定し、また受講者はそれぞれの都合にあわせて任意の時間帯で参加できるようにした。調査の全期間を通じて毎日3～5名の参加者があり、受講者25名中13名、延べ52人が参加した。



図 -5 発掘調査風景

(3) 考古楽者活動支援

学習機会の提供

セミナー終了後、埋蔵文化財調査事務所職員の引率により、遺跡見学、博物館見学をおこなった。

表 -6 平成14年度活動支援実績

年月日	内容	講師	場所
平成15年 2月21日	新宮宮内遺跡見学	埋蔵文化財調査事務所 種定淳介	揖保郡新宮町
平成15年 2月26日	吉田郷土館見学	埋蔵文化財調査事務所 種定淳介	神戸市西区
平成15年 3月11日	神戸市立博物館	埋蔵文化財調査事務所 種定淳介	神戸市中央区

3 平成15年度の事業内容

平成15年度は4月8日(火)に教育委員会記者クラブで募集について発表をおこない、4月10日(木)～4月30日(水)の期間に申し込み受付をおこなった。募集25名に対し、107名の応募があったため、抽選によって受講者を決定した。

(1) “考古楽者”養成セミナー

5月24日～2月21日の期間に下記プログラムでセミナーを開催した。



表 -7 平成15年度セミナープログラム

図 -6 セミナー講義風景

考古楽講座

	題名・講師	日時・会場	内容
1	開講式・オリエンテーション	5月24日(土) 播磨町中央公民館	担当者による趣旨・スケジュールの説明。受講者の自己紹介などをおこなう。
2	考古学へのいざない 埋蔵文化財調査事務所 種定淳介	5月31日(土) 播磨町中央公民館	考古学の特質とその方法論についてわかりやすく解説する。
3	考古学の楽しみ (1)発掘調査の方法と目的 埋蔵文化財調査事務所 種定淳介	6月7日(土) 播磨町郷土資料館	遺跡の発掘調査の目的と方法についてわかりやすく解説する。
4	考古学の楽しみ (2)弥生時代の基礎知識 埋蔵文化財調査事務所 種定淳介	6月21日(土) 播磨町郷土資料館	米と金属と戦いをキーワードとする弥生時代論について概説する。
5	考古学の楽しみ(3)いろいろな遺跡 埋蔵文化財調査事務所 種定淳介	7月5日(土) 播磨町中央公民館	さまざまな種類の遺跡の特徴とその調査方法を解説する。
6	大中遺跡の話 埋蔵文化財調査事務所 池田正男	7月26日(土) 播磨町中央公民館	大中遺跡の発見から調査と整備にいたる歴史について解説する。
7	弥生土器を探る 文化財室 多賀茂治	8月3日(日) 播磨町郷土資料館	弥生土器の特徴と時間の物差しとしての土器編年について解説する。
8	東播磨の考古学 埋蔵文化財調査事務所 大平 茂	8月23日(土) 播磨町中央公民館	加古川流域の旧石器時代から中世までの変遷を具体的に解説する。
9	東播磨の建築文化財 神戸建築文化財研究所 尾瀬耕司	8月30日(土) 播磨町中央公民館	東播磨の建築文化財について概説する。
10	考古学公開講座考古学と現代 文化財活用と現代社会 大阪大学大学院 福永伸哉	10月4日(土) 播磨町中央公民館	文化財を現代社会でどのように活用するか、川西市勝福寺古墳の発掘調査と情報発信の取り組みについて報告する。
11	博物館とボランティア活動 NOP 法人人と自然の会 清水文美	11月8日(土) 播磨町中央公民館	博物館活動を通じたボランティア活動の可能性を実践者の体験談を交えながら解説する。
12	加古川の舟運 歴史博物館 松井良祐	11月22日(土) 播磨町郷土資料館	加古川を中心として展開される近世の交通史を平易に解説する。
13	ふるさと文化の創造的伝承への道のり 文化財室 多賀茂治	1月12日(土) 播磨町郷土資料館	地域の文化財を次世代に伝え、現代に活かす方法やその意義を解説する。
14	セミナーを振り返って	2月8日(土) 播磨町中央公民館	自発的な討論会を開き、1年間の成果を検証し今後の展望を語る。
15	修了式・閉講式	2月21日(土) 播磨町中央公民館	修了証の交付をおこなう。

考古楽実習

	題名・講師	日時・会場	内容
1	発掘調査実習	7月～11月 大中遺跡	国指定史跡大中遺跡の発掘調査に参加する。
2	遺物整理実習	11月～2月 魚住分館	大中遺跡の発掘によって出土した遺物の整理・復元などをおこなう。

考古楽体験

	題名・講師	日時・会場	内容
1	古代の勾玉をつくる 埋蔵文化財調査事務所 柏原正民・松岡千寿・小川弦太	9月13日(土) 播磨町郷土資料館	古代の首飾り「勾玉」をつくる。
2	古代の石器をつくる 埋蔵文化財調査事務所 藤田 淳	9月27日(土) 播磨町郷土資料館	古代人になりきって石器をつくる。
3	遺跡を見る 和田村四合谷村ノ口 付城跡(三木市)	10月10日(金)	戦国時代の付城跡の発掘現場を見学する。
4	遺跡を見る 落地遺跡(上郡町)	1月21日(水)	古代の駅家跡の発掘調査現場を見学する。
5	博物館を見る 県立人と自然の博物館	10月19日(土)	自然系博物館の見学とNPO法人「人と自然の会」の活動を視察する。
6	博物館を見る 県立歴史博物館	11月23日(日)	特別展「古代兵庫への旅」の見学とボランティア活動の視察をおこなう。

(2) 大中遺跡発掘調査

平成15年度は大中遺跡の第20次調査として、下記のとおり発掘調査を実施した。

調査場所 加古郡播磨町大字大増 405-2・405-3・
405-4・405-6・406・407・411・432

調査主体 兵庫県教育委員会

調査種別 確認調査

調査期間 平成15年7月15日～11月14日

調査担当者

兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所
普及班 主査 種定淳介
技術職員 小川弦太

調査面積 372 m²

調査目的 史跡大中遺跡環境整備に先立つ史跡の内容確認のため。

調査方法

前年度同様に20m方眼に1カ所ずつ調査区を設定して調査をおこなった。盛土の除去にバックホーを使用した以外は、包含層掘削と遺構検出は人力でおこなった。

調査の成果

弥生時代後期～終末期の竪穴住居5棟を調査した。SH2001は長方形の竪穴住居であり、建て替え・拡張が行われている。SH2002は焼失住居であり炭化材が遺存した。SH2003は円形住居である。この他に鎌倉時代の遺構も調査した。今回の調査では、竪穴住居の存在を確認できたが、掘立柱建物などの遺構は確認できなかった。

発掘現場の公開

調査中は常時発掘現場を開放し、見学者には大中遺

跡の発見と保存の意義、発掘調査の方法と目的、遺跡公園の活用と将来の考古博物館の整備について説明した。また調査開始から終了まで「大中遺跡発掘調査ニュース」を10号まで刊行し、見学者に配布した。見学者の数は記名のあっただけで約380名である。また9月7日には現地説明会を実施して、約130名の参加者に遺跡の調査成果について説明した。

整理作業

調査終了後、埋蔵文化財調査事務所職員の指導により考古楽者養成セミナー参加者によって、出土遺物の水洗い、ネーミング、接合、復元を実施した。復元した資料は、平成16年度夏季先行展「私たちの由来」において展示コーナーを設けて展示した。

考古楽者養成セミナー受講者の参加

調査にはセミナー受講者が実習として参加した。受講者の参加の便を考慮して、土曜日を作業日として設定し、また受講者はそれぞれの都合にあわせて任意の時間帯で参加できるようにした。調査の全期間を通じて毎日3～5名の参加者があり、受講者25名全員、延べ66人、考古楽者延べ84人が参加した。



図 -7 発掘調査風景

(3) 考古学者活動支援

活動場所の提供

考古学者の活動拠点として、埋蔵文化財調査事務所魚住分館（明石市魚住町清水）に「ボランティアルーム」を設置した。この部屋では考古学者が集い、体験学習メニューの開発や研修、勉強会などを行った。

活動機会の提供

考古学者の活動機会を提供するために、県教育委員会埋蔵文化財調査事務所を通じて市町教委や学校などから体験学習の支援の要請を受け入れ、考古学倶楽部に支援を要請した。

学習機会の提供

前年度に引き続き遺跡見学等をおこなうとともに、埋蔵文化財調査事務所職員による講習等を実施した。



図 -8 ボランティアルームでの活動

表 -8 平成 15 年度活動支援実績

実施年月日	内容	講師	場所
平成 15 年 4 月 7 日	ろう鐸実習	埋蔵文化財調査事務所 種定淳介	魚住分館
平成 15 年 6 月 14 日	講座「古代山陽道と駅家」	埋蔵文化財調査事務所 種定淳介	魚住分館
平成 15 年 6 月 26 日	落地遺跡（野磨駅家）見学	上郡町教育委員会 小田 賢	赤穂郡上郡町
平成 15 年 8 月 1 日	兵庫県埋蔵文化財連絡会		神戸市中央区 神戸市立博物館
平成 15 年 10 月 10 日	和田村四合村ノ口付城跡見学	埋蔵文化財調査事務所 山田清朝	三木市
平成 15 年 12 月 10 日	和田村四合村ノ口付城跡見学	埋蔵文化財調査事務所 山田清朝	三木市
平成 15 年 12 月 12 日	小野好古館見学	小野考古館館長 大村敬通	小野市
平成 15 年 12 月 15 日	坂元遺跡見学	埋蔵文化財調査事務所 平田博幸・鐵英記	加古川市
平成 15 年 12 月 17 日	明石市立文化博物館見学	埋蔵文化財調査事務所 種定淳介	明石市
平成 16 年 1 月 17 日	講座「古代山陽道と駅家」	埋蔵文化財調査事務所 種定淳介	魚住分館
平成 16 年 2 月 4 日	講座「眠平焼の発掘調査」	埋蔵文化財調査事務所 仁尾一人	魚住分館
平成 16 年 2 月 23 日	赤松守護館跡・馬立古墳群見学	埋蔵文化財調査事務所 種定淳介	たつの市新宮町
平成 16 年 3 月 3 日	龜山古墳・玉丘古墳見学	埋蔵文化財調査事務所 種定淳介	加西市
平成 16 年 3 月 17 日	五色塚古墳・神戸市埋蔵文化財センター見学	埋蔵文化財調査事務所 種定淳介	神戸市
平成 16 年 3 月 18 日	加古川市総合文化センター見学	埋蔵文化財調査事務所 種定淳介	加古川市
平成 16 年 3 月 24 日	ガラス勾玉実習	埋蔵文化財調査事務所 藤田淳	魚住分館

事業メニュー開発

埋蔵文化財調査事務所職員の指導により、以下の体験学習メニューの開発をおこなった。

ろう鐸づくり

弥生時代のまつりのカネである銅鐸を学習し、その造形の神秘性を体感する。粘土で作った銅鐸を石膏で型取りし、隙間に溶けた蠟を流し込み、ミニチュアの蠟製銅鐸をつくることによって、古代の鑄造技術に触れる。

(主な材料)

石膏、粘土、パラフィン、ステアリン酸、クレヨン、新聞紙、カリ石鹼水

(主な道具)

ヘラ、アクリル板、割り箸、石膏ヘラ、ラバーボール、ブラシ、油性ペン、ビニール袋、鉛筆、カッター、ニードル、玉巻きテープ、ディスプレイカー、秤、コンロ、ホーロー鍋、温度計、酒タンポ、紙コップ、漏斗、軍手

(作業工程)

- 1 銅鐸の説明をする。
- 2 約400グラムの粘土で、高さ12cm前後、裾幅8cm前後、つり手の高さ5cm前後の銅鐸の原型をつくる。
- 3 銅鐸に切り金(アクリル板)を差し込む。
- 4 水200ccに250グラムの石膏を溶かし、原型に石膏を厚さ3cm程度塗って鑄型をつくる。
- 5 切り金を引き抜き、型を二つに分割する。
- 6 粘土の原型を削って、中子をつくる。
- 7 型に文様を刻む。
- 8 石膏の内面にカリ石鹼水を塗り、型の中に中子を納める。
- 9 パラフィンにステアリン酸を3~20%混ぜたものを湯煎して溶かし、クレヨンで好みの色を付けて型に流し込む。
- 10 型を外す。
- 11 後片づけ。

ガラス勾玉づくり

粘土で鑄型をつくり、中に粉碎したカラーガラス瓶を入れて加熱し、ガラス勾玉をつくる。

(主な材料)

すぐやく粘土、カラービン

(主な道具)

七輪製カバー付溶解炉

(作業工程)

- 1 すぐ焼く粘土に20%の砂を含有させ、3~4mmのシートを作り、好みの勾玉を基本形にして鑄型をつくる。
- 2 ひも通しの穴の治具も取り付け、七輪によって乾燥をおこなう。
- 3 カラービンを破碎して鑄型に入れ、七輪製のカバー付き溶解炉で溶かす。
- 4 鑄型から勾玉を取り出し、サンドペーパーと耐水ペーパーで表面を磨く。



図 -9 ろう鐸



図 -10 ガラス勾玉

4 平成16年度の事業内容

平成16年度は4月8日(木)に教育委員会記者クラブで募集について発表をおこない、4月9日(金)～4月30日(金)の期間に申し込み受付をおこなった。募集25名に対し、124名の応募があったため、抽選によって受講者を決定した。

(1) “考古楽者” 養成セミナー

5月22日～2月26日の期間に下記プログラムでセミナーを開催した。



図 -11 セミナー講義風景

表 -9 平成15年度セミナープログラム

考古楽講座

題名・講師	日時・会場	内容
1 開講式・オリエンテーション	5月22日(土) 播磨町中央公民館	担当者による趣旨・スケジュールの説明。受講者の自己紹介などをおこなう。
2 考古の美-稲と権力の時代遺産- 埋蔵文化財調査事務所 種定淳介	5月29日(土) 播磨町中央公民館	考古資料を美術史的観点から通観し、考古資料とはどのようなものかわかりやすく解説する。
3 考古学入門 -初めて出会う考古学- 埋蔵文化財調査事務所 種定淳介	6月13日(日) 播磨町中央公民館	考古学とはどのような学問か、目的・方法についてわかりやすく解説する。
4 考古学入門 -はじめて出会う考古学- 埋蔵文化財調査事務所 種定淳介	6月26日(土) 播磨町中央公民館	型式学、層位学、分布論、理化学的分析など考古学米の基本的な研究方法についてわかりやすく解説する。
5 弥生文化論-日本文化の源流を探る- 埋蔵文化財調査事務所 種定淳介	7月10日(土) 播磨町中央公民館	弥生時代はどのような時代か、稲・金属・戦い・国際化の4つのキーワードで解説する。
6 弥生土器の造形-時を計るものさし- 埋蔵文化財調査事務所 種定淳介	7月24日(土) 播磨町中央公民館	土器の歴史、弥生土器とは何か、時間のものさしとしての土器について解説する。
7 大遺跡を掘る-大遺跡の陣2002・3- 埋蔵文化財調査事務所 種定淳介	8月7日(土) 播磨町中央公民館	平成14・15年度の大遺跡の発掘調査について解説する。
8 青銅の神々 -銅鐸- 埋蔵文化財調査事務所 種定淳介	8月28日(土) 播磨町中央公民館	弥生時代の青銅器の代表である銅鐸について解説する。
9 公開講座 環境考古学最前線! 花粉が語る古環境 神戸大学 松下まり子	9月26日(日) 播磨町中央公民館	遺跡から出土する花粉化石からむかしの環境を読み解く方法を解説する。
10 公開講座 環境考古学最前線! 平野の環境史-環境変化・土地開発・災害- 立命館大学 高橋 学	10月3日(土) 播磨町中央公民館	遺跡の調査から地形環境の変遷と人間の暮らしの関係を研究し、現代の災害予防に役立てる方法を解説する。
11 公開講座 環境考古学最前線! 地震考古学から21世紀の大地震を考える 産業技術総合研究所 寒川 旭	10月30日(土) 播磨町中央公民館	遺跡で発見される地震の痕跡から、過去の巨大地震について研究し、21世紀に発生が予測される大地震について解説する。
12 博物館とボランティア 田中哲夫	11月27日(土) 播磨町中央公民館	博物館でのボランティア活動の可能性を実践者の声を通して解説する。
13 加古川の舟運 県立歴史博物館 松井良祐	12月12日(土) 播磨町中央公民館	加古川を中心として展開される近世の交通史を平易に解説する。
14 東播磨の建築文化財 神戸建築文化研究所 尾瀬耕司	12月25日(土) 播磨町中央公民館	東播磨の建築文化財の保存と活用について解説する。
15 文化財を活かそう 文化財室 多賀茂治	1月9日(日) 播磨町中央公民館	地域の文化財を次世代に伝え、現代に活かす方法やその意義を解説する。
16 考古楽倶楽部の活動 考古楽倶楽部 浜田武司・柳谷征博	1月22日(土) 播磨町中央公民館	自発的な討論会を開き、1年間の成果を検証し今後の展望を語る。
17 セミナーを振り返って	2月13日(日) 播磨町中央公民館	1年間の成果の展望と今後の展望について語り合う。
18 修了式・閉講式	2月26日(土) 播磨町中央公民館	修了証の交付をおこなう。

考古楽実習

	題名・講師	日時・会場	内容
1	発掘調査実習	7月～10月 大中遺跡	国指定史跡大中遺跡の発掘調査に参加する。
2	遺物整理実習	10月～2月 魚住分館	大中遺跡の発掘によって出土した遺物の整理・復元などをおこなう。

考古楽体験

	題名・講師	日時・会場	内容
1	勾玉をつくろう！ -楽しくつくろう昔のアクセサリ- 埋蔵文化財調査事務所 種定淳介	9月11日(土) 播磨町郷土資料館	古代の首飾り「勾玉」をつくる。
2	目指せ！石器づくりの達人 埋蔵文化財調査事務所 藤田 淳・上田健太郎	10月9日(土) 播磨町郷土資料館	古代人になりきって石器をつくる。
3	ろうたくをつくる 考古楽倶楽部 浜田武司	10月23日(土) 播磨町郷土資料館	弥生時代の青銅器銅鐸をろうでつくる。
4	遺跡を見る 坂元遺跡・西条古墳群・西条廃寺(加古川市)	9月30日(金)	発掘調査中の坂元遺跡、国史跡西条古墳群など加古川市内の遺跡を見学する。
5	遺跡を見る 神出窯跡群(神戸市西区)	12月2日(月)	平安時代の須恵器窯「神出窯跡群」の発掘調査現場を見学する。
6	博物館を見る 県立人と自然の博物館	11月14日(土)	自然系博物館の見学とNPO法人「人と自然の会」のイベントを視察する。
7	博物館を見る 県立歴史博物館	12月4日(日)	特別展「徳川美術館名品展」の見学とボランティア活動の視察をおこなう。
8	博物館を見る 神戸市立博物館	1月16日(土)	特別展「震災から10周年 発信する地域文化」の見学と講演会の聴講。

公開セミナー「環境考古学最前線」講義項目

第1回「花粉が語る古環境」 講師：神戸大学教育研究センター 松下まり子

- 1 考古学と植物学
- 2 花粉化石を調べる
- 3 花粉ってどんなもの？
- 4 花粉分析の実際
- 5 花粉分析による調査研究
- 6 他分野との総合化

第2回「平野の環境史-環境変化・土地開発・災害-」 講師：立命館大学 高橋 学

- 1 はじめに
- 2 研究の視点
- 3 地震の痕跡
- 4 災害とは
- 5 地震が起きる仕組み
- 6 近畿地方の地震
- 7 地震による建物の被害と地形の関係
- 8 京都の話
- 9 災害にそなえる
- 10 プレート型地震の恐怖
- 11 考古楽者への期待

第3回「地震考古学から21世紀の大地震を考える」 講師：産業技術総合研究所 寒川 旭

- 1 はじめに
- 2 地震が起きる仕組み
- 3 南海地震と東南海地震
- 4 南海地震による津波
- 5 地震考古学
- 6 活断層

(2) 大中遺跡発掘調査

平成 16 年度は大中遺跡の第 21 次調査として、下記のとおり調査を実施した。

調査場所 加古郡播磨町大中字大増 421-1・
421-2・422・426・427-2・429-1・431-2・
435-1・437・425

調査主体 兵庫県教育委員会

調査種別 確認調査

調査期間 平成 16 年 8 月 25 日～12 月 22 日

調査担当者

兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所

普及班 主査 種定淳介

技術職員 小川弦太

調査面積 412 m²

調査目的 史跡大中遺跡環境整備に先立つ史跡の内容確認のため。

調査の方法

前年度同様に 20m 方眼に 1 カ所ずつ調査区を設定して調査をおこなった。盛土の除去にバックホーを使用した以外は、包含層掘削と遺構検出は人力でおこなった。古環境復元のため、竪穴住居の埋土の分析をおこなったほか、赤色顔料の調査や考古地磁気の測定なども実施した。

調査の成果

弥生時代後期～終末期の竪穴住居 5 棟の他、土坑、溝、柱穴を調査した。竪穴住居 SH2101 は方形 4 本柱ベッド付の住居である。SH2103 は六角形住居であり、中央土坑を中心に強い被熱の跡が認められた。SH2104 は方形 2 本柱の住居跡であり、床面からは赤色顔料が検出された。これらの竪穴住居は通常のものとは異なる特徴をもち、この周辺が工房等、集落の中でも特別な区域であった可能性が考えられる。

発掘現場の公開

調査中は常時発掘現場を開放し、見学者には大中遺跡の発見と保存の意義、発掘調査の方法と目的、遺跡公園の活用と将来の考古博物館の整備について説明した。また調査開始から終了まで「大中遺跡発掘 NEWS」を 13 号まで刊行し、見学者に配布した。見学者の数は記名のあっただけで約 380 名である。また 12 月 5 日には現地説明会を実施して、約 160 名の参加者に遺

跡の調査成果について説明した。

整理作業

調査終了後、埋蔵文化財調査事務所職員の指導により考古楽者養成セミナー参加者によって、出土遺物の水洗い、ネーミング、接合、復元を実施した。復元した資料は、平成 17 年度夏季先行展「自然とともに生きる」において展示コーナーを設けて展示した。

またこの年度には平成 14 年度・15 年度の 2 ケ年の調査について、埋蔵文化財調査事務所において出土遺物の実測、写真撮影、トレースなどの作業をおこない、発掘調査報告書を刊行した。

考古楽者養成セミナー受講者の参加

調査には考古楽者養成セミナー受講者が実習として参加した。受講者の参加の便を考慮して、土曜日を作業日として設定し、また受講者はそれぞれの都合にあわせて任意の時間帯で参加できるようにした。調査の全期間を通じて毎日 3～5 名の参加者があり、受講者及び考古楽者が延べ 69 人参加した。



図 -12 発掘調査風景

(3) 考古楽者活動支援

活動場所の提供

平成 15 年度に引き続き、考古楽者の活動拠点として、埋蔵文化財調査事務所魚住分館のボランティアルームを提供した。この部屋に考古楽者が集い、体験学習メニューの開発や研修、勉強会などを行った。

活動機会の提供

考古楽者の活動機会を提供するために、県教育委員会埋蔵文化財調査事務所を通じて市町教委や学校などから体験学習の支援の要請を受け入れ、考古楽倶楽部に支援を要請した。

学習機会の提供

前年度に引き続き遺跡見学等をおこなうとともに、埋蔵文化財調査事務所職員による講習等を実施した。



図 -13 北淡町ろう鐸づくり

表 -10 平成 16 年度活動支援

実施年月日	内容	講師	場所
平成 16 年 4 月 17 日	拓本実習	埋蔵文化財調査事務所 種定淳介	魚住分館
平成 16 年 5 月 19 日	講座「土器の話」	埋蔵文化財調査事務所 種定淳介	魚住分館
平成 16 年 5 月 26 日	石器づくりファシリテーター養成講座	埋蔵文化財調査事務所 藤田 淳・上田健太郎	魚住分館
平成 16 年 5 月 28 日	落地遺跡(野磨駅家)見学	上郡町教育委員会 小田 賢	赤穂郡上郡町
平成 16 年 7 月 3 日	玉づくりファシリテーター養成講座	埋蔵文化財調査事務所 種定淳介・柏原正民・小川弦太	魚住分館
平成 16 年 7 月 7 日	大中遺跡 20 次調査成果報告会	埋蔵文化財調査事務所 小川弦太	魚住分館
平成 16 年 7 月 19 日	講座「土器焼成実験について」	埋蔵文化財調査事務所 村上泰樹	魚住分館
平成 16 年 7 月 21 日	講座「土器の話」	埋蔵文化財調査事務所 岡田章一	魚住分館
平成 16 年 7 月 26 日	土器焼成実験	埋蔵文化財調査事務所 村上泰樹	魚住分館
平成 16 年 8 月 1 日	歴史博物館「津々浦々をめぐる」見学		姫路市 歴史博物館
平成 16 年 8 月 4 日	講座「土器の話」	埋蔵文化財調査事務所 種定淳介	魚住分館
平成 16 年 8 月 6 日	兵庫県埋蔵文化財連絡会		神戸市 神戸市立博物館
平成 16 年 9 月 1 日	講座「土器の話」	埋蔵文化財調査事務所 種定淳介	魚住分館
平成 16 年 9 月 4 日	勾玉づくり実習		播磨町郷土資料館
平成 16 年 9 月 15 日	講座「土器の話」	埋蔵文化財調査事務所 種定淳介	魚住分館
平成 16 年 9 月 17 日	坂元遺跡見学	埋蔵文化財調査事務所 渡辺 昇	加古川市
平成 16 年 10 月 13 日	講座「土器焼成実験について」	埋蔵文化財調査事務所 村上泰樹	魚住分館
平成 16 年 11 月 17 日	講座「土器の話」	埋蔵文化財調査事務所 種定淳介	魚住分館
平成 16 年 12 月 4 日	歴史博物館「徳川美術館名品展」見学		姫路市 歴史博物館
平成 17 年 1 月 19 日	坂元遺跡見学	埋蔵文化財調査事務所 渡辺 昇	加古川市
平成 17 年 2 月 11 日	先行展学習会・見学会	文化財室 山下史朗	神戸市兵庫区
平成 17 年 2 月 22 日	大中遺跡第 22 次調査見学	埋蔵文化財調査事務所 岸本一宏	加古郡播磨町
平成 17 年 3 月 26 日	土器焼成実験	埋蔵文化財調査事務所 村上泰樹・池田征弘	加古郡播磨町 播磨大中古代の村

事業メニュー開発

埋蔵文化財調査事務所職員の指導により、以下の体験学習メニューや体験学習キットの開発をおこなった。

土器分類資料（ディスカバリーキット）

縄文時代から現代に至る実物の土器片を網羅的に集成・配列し、考古学の基本姿勢である「モノ」の観察と分類の視点を養い、考古資料の特質を学ぶ教材として活用するために、考古楽者と埋蔵文化財調査事務所職員が協力して、資料の選定、収集をおこない、学習キットとして製作した。



図 -14 ディスカバリーキット

拓本づくり

考古学の記録方法である拓本をアレンジして、Tシャツで拓本をとったり、拓本をカンパッジに加工するなど、楽しみながら拓本をとれる学習プログラムを開発した。



図 -15 拓本（Tシャツとカンパッジ）

粘土板ガラス絵

土器焼成とガラス勾玉づくりの技術を応用した体験メニュー。粘土で製作した陶板に線刻画を描き、そこに色ガラス粉を埋め込み加熱し、陶板を製作する。

（主な材料）

すぐ焼く粘土、色ガラス粉

（主な道具）

七輪

（作業工程）

- 1 すぐ焼く粘土を板状にのばし、そこに模様を刻む。
- 2 刻みに色ガラス粉を埋め込む。
- 3 七輪で加熱する。



図 -16 拓本あんどん

古代の織物をつくる

簡易な織機を使って古代の織物をつくる。

（材料・道具）

織る木枠、スティック、糸、フォーク、厚紙、はさみ

（作業工程）

- 1 織る木枠にたて糸をかける。
- 2 厚紙をたて糸の上下に交互にかける。
- 3 スティックによこ糸を通し、たて糸の上下に交互に通す。
- 4 フォークでよこ糸を厚紙の方に寄せる。
- 5 3~4の作業を繰り返す。



図 -17 古代の織物

地域文化財展

1 事業の概要

(1) 事業の趣旨

考古博物館では、考古資料がその出土した遺跡とは切り離して理解できないものであるという特性から、単に考古資料を展示するだけではなく、それが出土した遺跡についてもあわせて情報提供をおこなうことを基本的な考え方としている。しかし遺跡は土地そのものであり、博物館での展示では写真・図面等による二次的な情報提供しかおこなえない。また県内の全ての考古資料を考古博物館が所有しているのではなく、大多数の資料は遺跡が所在する市町教委が所有・保管しており、実物資料は遺跡のある「現地」にある。

考古博物館と「現場(フィールド)」を結びつけるためには、国・県指定史跡をはじめとする遺跡や、遺物を所蔵する市町立資料館等を考古博物館のサテライトと位置づけ、連携して埋蔵文化財の活用事業を展開していくことが必要である。

このような連携事業を考古博物館開館時にスムーズに始動させるためには、市町において埋蔵文化財を活用する体制が整備されていることが前提となるため、まず県が支援することにより博物館開館までに市町における埋蔵文化財の活用を促進させ、サテライトとしての機能を充実させることを目的に、県と市町との共催で、地域を象徴するテーマのもと県内各地に所在する遺跡や遺物を素材にして、展示会・シンポジウム・講演会・体験イベントを組み合わせた事業を実施することとした。

この事業は一過性のイベントではなく、イベントを実施することにより育成される人材、立ち上げられる組織、事業運営のノウハウなどが、開催地域で引き継がれ、埋蔵文化財の活用が促進されることを目的としている。

(2) 事業の経緯

地域文化財展は平成 14 年度から博物館開館までの 5 年間(平成 18 年度まで)で、兵庫県を構成する旧五国(摂津・播磨・丹波・但馬・淡路)で事業を実施する計画でスタートした。平成 14 年度は、当時北近畿豊

岡自動車道建設事業で発見され調査中であった茶すり山古墳を素材にして、但馬地域の古墳時代に焦点をあてた事業「古代但馬の王墓」をメイン会場となった和田山町をはじめ、朝来郡内各町との共催で開催した。平成 15 年度は環境整備が進みつつある国史跡新宮宮内遺跡の活用を促進するために、新宮町をメイン会場に西播磨各市町との共催で「邪馬台国への道のり」をテーマに事業を実施した。平成 16 年度は阪神・淡路大震災の 10 周年にあたることから、神戸市をはじめとする被災市町との共催で「震災から 10 年 発信する地域文化」をテーマに事業を実施した。

(3) 事業の内容

事業内容は年度毎に開催地や会場の都合により若干の変動があるが、基本的にはほぼ同じ内容で実施した。基本的な構成は会期 2 週間程度の展示会、展示期間中に開催するシンポジウム・講演会・体験イベント、事業運営をサポートするボランティアの養成の各事業である。事業は県と会場を提供する市町が主催者となり、地域の各市町が共催して実施した。

展示会

テーマに沿って地域を代表する考古資料の展示をおこなう。日頃公開される機会の少ない貴重な実物資料を中心として、写真パネル、解説パネルなどを展示した。また展示内容を詳しく解説した図録を作成した。

シンポジウム

展示に関連するテーマで、公開シンポジウムを開催した。内容は専門的でありながら、一般の方にも親しみやすいものを心がけた。パネラーには第一線の研究者とともに市町の文化財担当職員やボランティアなどにも参加を要請し、考古学的な研究成果の活用についても意見交換をおこなった。

講演会

県や市町の埋蔵文化財調査担当者により、展示に関連するテーマで連続講演会を実施した。

体験イベント

勾玉づくりなど、考古学に関連する素材で一般向け

の体験学習を実施した。

ボランティア養成

展示の準備、解説など、事業運営をサポートするボランティアを養成するために、ボランティア養成講座を実施した。

年度	テーマ	開催地	事業内容	展示会場
平成 14 年度	古代但馬の王墓	和田山町	展示会・シンポジウム・ボランティア養成・体験イベント	駅前展示館 (無料)
平成 15 年度	邪馬台国への道のり	新宮町	展示会・シンポジウム・ボランティア養成・体験イベント・ワークショップ・講座	新宮町立町民スポーツセンター (無料)
平成 16 年度	発信する地域文化	神戸市	展示会・講演会・シンポジウム	神戸市立博物館 (入館料 600 円)



2 平成14年度「古代但馬の王墓」

1 開催趣旨

国土交通省が実施する北近畿豊岡自動車道建設事業に伴う発掘調査により、朝来郡和田山町筒江（現朝来市）で、古墳時代中期の大型円墳が発見された。この茶すり山古墳は発掘調査の結果、近畿最大の円墳であり、豊富な副葬品が出土する重要な遺跡であることが明らかになった。兵庫県教育委員会では国土交通省と古墳の保存について協議を進めるとともに、古墳の保存のためには地域住民の理解が不可欠であるとの考えから、発掘調査成果の速やかな公開をおこなうこととした。

2 開催場所

朝来郡和田山町

2 開催期間

平成14年8月13日（火）～9月8日（日）

3 主催等

主催：兵庫県教育委員会

共催：和田山町教育委員会、朝来町教育委員会、生野町教育委員会、山東町教育委員会、朝来郡広域事務組合

後援：国土交通省豊岡工事事務所、兵庫県但馬県民局、但馬広域行政事務組合、但馬史研究会、但馬考古学研究会

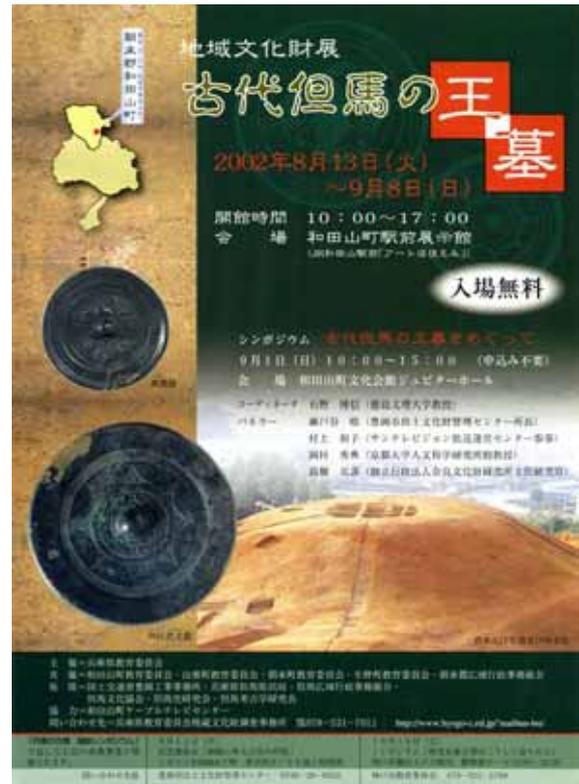


図 -2 「古代但馬の王墓」チラシ

(1) 地域文化財展「古代但馬の王墓」

開催期間 平成14年8月13日（火）～9月8日（日）

場 所 和田山町駅前展示館「アートほほえみ」

展示内容 北近畿豊岡自動車道建設に伴い発掘調査され、注目された但馬の王墓と目される若水A11号墳や茶すり山古墳の出土品を中心に、弥生時代から古墳時代の「但馬の王墓」の実態にせまる展示をおこなう。

内覧会 平成14年8月12日（月）

13:00～14:00

展示内容

但馬の王墓

(1) 王権と鏡

(2) 王権と埴輪

(3) 王権を支えた首長たち

但馬の王の館

(1) 王権と居館

(2) 王権と祭祀

古墳時代の暮らし

古墳の調査と私たちの暮らし

入場料 無料



図 -3 展示会場



図 -4 展示会場

(2) シンポジウム「古代但馬の王墓をめぐって」

開催日時 平成14年9月1日(日)

10:00~15:00

開催場所 和田山町文化会館(ジュピターホール)

内 容 「古代但馬の王墓」の歴史的意義について研究者などを中心としたメンバーでシンポジウムを行い、但馬の魅力について再発見の契機とする。



図 -5 シンポジウム風景

プログラム:

10:00~10:30 陣太鼓
 10:30~10:40 開会挨拶 兵庫県教育長 武田政義
 10:40~11:05 事例報告1「若水A11号墳の調査」
 兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所 平田博幸
 11:05~11:30 事例報告2「茶すり山古墳の調査」
 兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所 岸本一宏
 11:30~12:00 基調報告1「中国鏡からみた但馬の王権」
 京都大学人文科学研究所 岡村秀典氏
 12:00~12:30 基調報告2「埴輪からみた但馬の古墳時代」
 独立行政法人奈良文化財研究所 高橋克壽氏
 13:15~15:00 シンポジウム 徳島文理大学教授石野博信氏
 豊岡市出土文化財管理センター瀬戸谷皓氏
 サンテレビ参事村上和子氏
 事例報告・基調報告発表者
 15:00~15:10 閉会挨拶 埋蔵文化財調査事務所所長 藤本修三

(3) 古代体験イベント

開催日時 平成14年8月31日(土)

開催場所 和田山町駅前展示館

内 容 勾玉づくり

参加人数 21人



図 -6 勾玉づくり

(4) 文化財ボランティア養成講座

開催期間 平成14年6月29日(土)~8月3日(土)

募集期間 平成14年6月18日(火)~21日(金)

開催場所 和田山町文化会館研修室

受講者数 10人

内 容

「地域文化財展」に参画するボランティアを養成するために、希望者を対象として講義・見学会・出土品解説などをおこない、修了者には「文化財ボランティア修了証」を発行する。

表 -1 ボランティア養成講座プログラム

	内容	日時	場所
1	開講式・オリエンテーション	6月29日(土)	和田山町文化会館
2	池田古墳・城の山古墳ほか見学	7月13日(土)	和田山町郷土歴史館ほか
3	南但馬の古墳時代の遺跡について	7月20日(土)	和田山町文化会館
4	但馬の王墓の変遷について	7月27日(土)	和田山町文化会館
5	展示解説と古墳時代の基礎知識	8月3日(土)	和田山町文化会館

表 -2 地域文化財展「古代但馬の王墓」展示資料

	遺跡名	所在地	品名	数量	指定等	所有者
1	芝花墳墓群	山東町	弥生土器	2		兵庫県教育委員会
2	梅田東 10 号墓	和田山町	ガラス小玉 ヤリガンナ 弥生土器	50 3 2		兵庫県教育委員会
3	梅田東 18 号木棺墓	和田山町	ガラス管玉 碧玉管玉 ガラス小玉 ガラス粟玉 弥生土器	24 55 170 178 2		兵庫県教育委員会
4	内場山墳丘墓	篠山市	素環頭大刀 鉄鍬 鉄斧 ヤリガンナ 針状鉄器 不明鉄器 弥生土器 ガラス小玉 ガラス管玉	1 6 1 1 1 1 8 130 6	県指定	兵庫県教育委員会
5	有年原・田中遺跡	赤穂市	特殊器台 特殊壺 大型装飾付高坏	1 1 1	レプリカ	赤穂市教育委員会
6	茶すり山古墳	和田山町	二仙四獣鏡 鉄刀 鉄鍬 鉄斧 鋤先 鎌 穂摘具 ヤリガンナ 勾玉 管玉 ガラス小玉 円筒埴輪 朝顔形埴輪 家形埴輪	1 1 5 3 2 2 2 1 2 8 150 1 1 1		兵庫県教育委員会
7	筒江長尾古墳	和田山町	頭椎大刀	1	県指定	和田山町教育委員会
8	東見寺古墳	和田山町	轡 輪鏡	2 2		和田山町教育委員会
9	三町田古墳	朝来町	金銅装鏡板 金銅装杏葉 金銅装辻金具	2 2 2	町指定	朝来町教育委員会
10	八幡山 6 号墳	村岡町	珠文鏡 勾玉 管玉 土師器 須恵器	1 1 9 2 1		村岡町教育委員会
11	小山 1 号墳	日高町	短甲	1		日高町教育委員会
12	年ノ神 6 号墳	三木市	短甲 四獣鏡 鉄刀 鉄剣 ヤリガンナ 鉄鍬 鉄斧 鋤先 鎌	1 1 1 1 2 6 1 1 1		兵庫県教育委員会

			勾玉 ガラス玉	1 80		
13	若水A11号墳	山東町	飛禽鏡 内行花文鏡	1 1		兵庫県教育委員会
14	丁瓢塚古墳	姫路市	特殊壺片	1		姫路市教育委員会
15	小見塚古墳	城崎町	円筒埴輪片	2		豊岡市教育委員会
16	見蔵岡遺跡	竹野町	円筒埴輪片	3		竹野町教育委員会
17	池田古墳	和田山町	円筒埴輪 朝顔形埴輪	2 1		和田山町教育委員会
18	茶臼山古墳	出石町	円筒埴輪 冢形埴輪	4 4		出石町教育委員会
19	船宮古墳	朝来町	円筒埴輪 蓋形埴輪 盾形埴輪 牛形埴輪	2 1 1 1		朝来町教育委員会
20	岡田2号墳	和田山町	円筒埴輪片	2		兵庫県教育委員会
21	長塚古墳	和田山町	円筒埴輪	4		和田山町教育委員会
22	芝ヶ端古墳	山東町	円筒埴輪片 朝顔形埴輪片 盛土剥ぎ取り	2 2 1		兵庫県教育委員会
23	森向山古墳	山東町	人物埴輪 馬形埴輪 円筒埴輪	1 1 1		山東町教育委員会
24	観音塚古墳	養父町	円筒埴輪	2		養父町教育委員会
25	和賀向山古墳群	山東町	円筒埴輪	2		兵庫県教育委員会
26	加都車塚古墳	和田山町	円筒埴輪片	2		和田山町教育委員会
27	舞子浜遺跡	神戸市	円筒埴輪 蓋形埴輪	1 1		兵庫県教育委員会
28	向山2号墳	和田山町	内行花文鏡 鈿 土師器	1 2 2		兵庫県教育委員会
29	向山6号墳	和田山町	白玉 管玉 勾玉 有孔円板 土師器	4 16 2 2 1		兵庫県教育委員会
30	向山11号墳	和田山町	白玉 須恵器	50 1		兵庫県教育委員会
31	梅田1号墳	和田山町	四葉乳文鏡 琴柱形石製品 碧玉勾玉 滑石勾玉 管玉 白玉 鉄刀 鉄鏃 鉄鎌 鉄斧 穂摘具 針 土師器	1 4 3 88 8 33 1 5 1 1 2 3 4		兵庫県教育委員会
32	筒江中山23号墳	和田山町	内行花文鏡	1		兵庫県教育委員会
33	馬場19号墳	山東町	方格規矩鏡	1		山東町教育委員会
34	馬場17号墳	山東町	子持勾玉 勾玉 管玉 白玉 切子玉	1 2 10 950 1		山東町教育委員会

35	東南山3号墳(第3主体) (第1主体)	山東町	石釧 管玉 ガラス小玉 鈿 鉄剣 鉄鏃 鋤先 鉄斧 鎌 鈿	1 2 5 1 1 2 1 1 1 1 1		山東町教育委員会
36	東南山2号墳	山東町	珠文鏡 勾玉 管玉 鉄刀 鉄鏃 鉄斧	1 2 1 1 1 1		山東町教育委員会
37	行者塚古墳	加古川市	罎形埴輪 家形埴輪 円筒埴輪 高杯 笄形埴輪 土製模造品	1 1 1 1 2 25		加古川市教育委員会
38	柿坪遺跡	山東町	滑石製勾玉 土師器角杯 ミニチュア土器 須恵器鉢 須恵器甕	1 1 1 2 25		兵庫県教育委員会
39	松野遺跡	神戸市	有孔円板 剣形 須恵器	2 2 3		神戸市教育委員会
40	袴狭遺跡	出石町	線刻絵画箱形木製品 板琴	1 1	県指定	兵庫県教育委員会
41	入佐川遺跡	出石町	石釧 土師器	1 5		兵庫県教育委員会
42	藤江別所遺跡	明石市	車輪石 小型銅鏡 勾玉 垂玉	1 4 1 1		明石市教育委員会
43	加都遺跡	和田山町	勾玉 剣形 鞆羽口 砥石 須恵器 土師器 製塩土器	1 3 1 1 4 4 1		兵庫県教育委員会
44	鬼神谷1号窯	竹野町	須恵器	3		竹野町教育委員会
45	筒江浦石遺跡	和田山町	土師器 粘土探掘坑剥ぎ取り	4 1		兵庫県教育委員会
46	五反田遺跡	豊岡市	琴柱形石製品 有孔円板	1 1		兵庫県教育委員会
47	小田地遺跡	村岡町	須恵器	1		兵庫県教育委員会
48	貴船神社遺跡	北淡町	製塩土器 船形土製品 イイダコ壺 土錘 製塩土器層剥ぎ取り	5 2 5 5 1		兵庫県教育委員会

3 平成15年度「邪馬台国への道のり」

1 開催趣旨

国史跡新宮宮内遺跡の整備を進める新宮町において、弥生時代から古墳時代の西播磨地域に焦点をあて、国家（初期ヤマト王権）形成への動きをダイナミックに検証する展示会、イベント等を開催して、新宮宮内遺跡の活用促進をはかる。

2 開催場所

揖保郡新宮町

3 開催期間

平成15年11月1日（土）～11月16日（日）

4 主催等

主催：兵庫県教育委員会・新宮町教育委員会

共催：姫路市教育委員会・相海市教育委員会・龍野市教育委員会・赤穂市教育委員会・太子町教育委員会・揖保川町教育委員会・御津町教育委員会・上郡町教育委員会・佐用郡教育委員会・山崎町教育委員会・安富町教育委員会・一宮町教育委員会・波賀町教育委員会・千種町教育委員会・播磨高原広域事務組合教育委員会・宍粟郡広域行政事務組合・県立歴史博物館・大手前大学史学研究所

後援：兵庫県中播磨県民局・西播磨県民局・県立西播磨文化会館



図 -7 「邪馬台国への道のり」チラシ

(1) 地域文化財展「邪馬台国への道のり」

開催期間 平成15年11月1日（土）

～11月16日（日）

場 所 新宮町立町民スポーツセンター

展示趣旨 西播磨各地の弥生時代中期から古墳時代前期の出土文化財を展示し、国家形成期の西播磨の動きを探る。

展示内容

プロローグ 邪馬台国時代への招待

新宮宮内遺跡 - 弥生のムラ -

倭国大乱 拠点集落（環濠集落）・高地性集落の盛衰

祭祀 銅鐸

その他の祭祀

銅鐸の廃棄・破壊

鏡の登場

墳墓 周溝墓

台状墓

エピローグ



図 -8 展示会場



図 -9 展示会場

入場料 無料

(2) シンポジウム「考古学から見た邪馬台国への道のり」

開催日時 平成15年11月15日(土)

11:00~16:00

開催場所 新宮町立総合福祉会館ふれあい 大ホール

プログラム:

11:00 開会挨拶 兵庫県教育長 武田政義

11:10~11:40

「新宮宮内遺跡と西播磨の弥生時代」 松本正信氏

11:40~12:10

「石器から鉄器へ(倭国大乱)」

文化庁記念物課 禰宜田佳男氏

13:20~13:50

「弥生墳墓から古墳へ」 龍野市教育委員会 岸本道昭氏

13:50~14:20

「銅鐸から銅鏡へ」 大阪大学助教授 福永伸哉氏

14:30~16:00 シンポジウム

(コーディネーター) 檀本誠一 大手前大学教授

(パネリスト) 梅村忠男新宮町長、大西和美新宮町立図書館長、

松本正信氏、禰宜田佳男氏、岸本道昭氏、福永伸哉氏

16:00 閉会挨拶 苅尾新宮町教育長



図 -10 シンポジウム

(3) 体験イベント「新宮宮内弥生フェスタ」

開催日時 平成15年11月2日(日)

~11月3日(月)

開催場所 新宮宮内遺跡

内容 新宮宮内遺跡を舞台に、弥生・古墳時代を
テーマにした各種イベントを実施する。

(体験メニュー)

勾玉づくり・土笛づくり・分銅形土製品づくり

拓本・石庖丁づくり・ろう鐸づくり・赤米炊き

参加人数 222人



図 -11 弥生フェスタ

(4) 遺跡見学ウォークラリー

「邪馬台国への道のりをたどる」

開催日時 平成15年11月9日(日)

コース

新宮宮内遺跡、天神山古墳、歴史民俗資料館、

宮内天神ほか

講師 兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所職員、

新宮町教育委員会職員

参加人数 18人



図 -12 ウォークラリー

(5) 地域文化財講座「邪馬台国への道のり」

開催日時：平成15年9月28日～10月19日

開催場所：県立歴史博物館講堂

内容：国家形成期（弥生時代後期から古墳時代前期）

の西播磨をテーマに、連続講座を実施する。

表 -3 講座プログラムと受講者数

	開催日	タイトル	講師	受講者数(人)
第1回	9月28日(日)	西播磨の国家形成期の集落遺跡	埋蔵文化財調査事務所 鐵 英記	45
第2回	10月5日(日)	西播磨の青銅器生産と祭祀	埋蔵文化財調査事務所 種定 淳介	53
第3回	10月12日(日)	西播磨の弥生時代墳墓	埋蔵文化財調査事務所 岸本一宏	46
第4回	10月19日(日)	西播磨の前方後円墳と三角縁神獣鏡	埋蔵文化財調査事務所 篠宮 正	54
合計				198

(6) ボランティア養成講座

内 容

西播磨在住の県民を対象に、考古学概論や体験学習、展示の基礎知識について講習をおこない、地域文化財展の全期間を通じてボランティアとして運営に参加できる人材を育成する。この人材は地域文化財展終了後、新宮宮内遺跡を核として、地域における文化財学習活動のリーダーとなることを期待する。

実施期間 平成15年8月30日～10月31日

開催場所 新宮町立図書館研修室・新宮宮内遺跡

プログラム

下記の内容で講座を実施した。

表 -4 養成講座プログラム

	開催日	内容
第1回	8月30日(土)	開講式、オリエンテーション、考古学入門
第2回	9月13日(土)	新宮宮内遺跡の発掘調査成果
第3回	9月27日(土)	新宮宮内遺跡見学
第4回	10月11日(土)	体験学習
第5回	10月25日(土)	展示解説(講義)
	10月28日～31日	展示及び解説実習

講 師

兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所職員

新宮町教育委員会職員

松本正信氏・加藤史郎氏

受講者数 16人

表 -5 地域文化財展「邪馬台国への道のり」展示リスト

遺跡名	所在地	品名	数量	指定等	所有者
1 蛇ノ杖遺跡	三日月町	器台	1		佐用郡教育委員会
		高杯	1		
2 新宮宮内遺跡	新宮町	大溝剥ぎ取り	1		新宮町教育委員会
		弥生土器	12		
		分銅形土製品	21		
		紡錘車	5		
		石鏃	19		
		石剣	1		
		石斧	2		
		環状石斧	2		
		石鑿	1		
		石包丁	4		
		管玉	12		
		ガラス玉	6		
		刀子	1		
3 横坂丘陵遺跡	佐用町	弥生土器	1		佐用郡教育委員会
		石包丁	3		
4 本位田高田遺跡	佐用町	弥生土器	9		佐用郡教育委員会
5 本位田権現谷A遺跡	佐用町	弥生土器	4		佐用郡教育委員会
		鉄器片	25		
6 大酒相の原遺跡	上月町	弥生土器	6		佐用郡教育委員会
7 東有年・沖田遺跡	赤穂市	弥生土器	11		赤穂市教育委員会
		石鏃	5		
		石錐	1		
		石斧	2		
		砥石	1		
8 周世入相遺跡	赤穂市	弥生土器	9		兵庫県教育委員会
		鈍	1		
		鉄鏃	1		
9 家原遺跡	一宮町	弥生土器	1		一宮町教育委員会
		石斧	1		
		砥石	1		
10 伊和遺跡	一宮町	石剣	1		一宮町教育委員会
11 鹿沢遺跡	山崎町	弥生土器	2		山崎町教育委員会
		石包丁	1		
12 谷山遺跡	安富町	弥生土器	2		安富町教育委員会
		砥石	1		
13 尾崎遺跡	龍野市	弥生土器	5		龍野市教育委員会
14 小神辻の堂遺跡	龍野市	弥生土器	4		龍野市教育委員会
15 北山遺跡	龍野市	弥生土器	12		龍野市教育委員会
16 門前遺跡	龍野市	弥生土器	1		龍野市教育委員会
17 鷗遺跡	太子町	弥生土器	4		太子町教育委員会
18 立岡遺跡	太子町	弥生土器	1		兵庫県教育委員会
19 平方遺跡	太子町	弥生土器	1		太子町教育委員会
20 亀田遺跡	太子町	弥生土器	6		兵庫県教育委員会
		分銅形土製品	2		
		石鏃	8		
		尖頭器	1		
		石錐	3		
		削器	5		
		楔形石器	3		
		伐採斧	5		
		加工斧	4		
		石包丁	3		
		石錘	2		
		磨り石	4		
		砥石	2		
		石皿	2		
		サヌカイト分割原石	3		
		板状鉄斧	1		
21 丁柳ヶ瀬遺跡	姫路市	鉄鏃	1		兵庫県教育委員会
22 和久遺跡	姫路市	弥生土器	3		姫路市教育委員会
23 今宿丁田遺跡	姫路市	弥生土器	3		姫路市教育委員会

24	船場川東区整遺跡	姫路市	弥生土器	4		姫路市教育委員会
25	大山神社遺跡	家島町	弥生土器 石斧 石錘	9 1 1		岡山理科大学
26	青木遺跡	山崎町	銅鐸	1	レプリカ	県立歴史博物館
27	今宿丁田遺跡	姫路市	銅鐸鑄型復元	1	レプリカ	県立歴史博物館
28	上高野遺跡	赤穂市	銅鐸鑄型	1	レプリカ	赤穂市教育委員会
29	養久山・前地遺跡	龍野市	石臼	1		龍野市教育委員会
30	ごろろう山遺跡	南光町	銅剣	1	県指定	東徳久村
31	梅谷遺跡	夢前町	石剣	1		夢前町教育委員会
32	玉津田中遺跡	神戸市	木剣	1		兵庫県教育委員会
33	宗行井谷遺跡	佐用町	銅鏃	1		佐用郡教育委員会
34	田井遺跡	山崎町	銅鐸形土製品	1		山崎町教育委員会
35	有年原・田中遺跡	赤穂市	銅鐸形土製品 分銅形土製品	2 4		赤穂市教育委員会
36	横坂丘陵遺跡	佐用町	土製勾玉	1		佐用郡教育委員会
37	古網干遺跡	姫路市	卜骨	1		姫路市教育委員会
38	川島川床遺跡	太子町	絵画土器	1	レプリカ	太子町教育委員会
39	養久山・前地遺跡	龍野市	絵画土器	7		龍野市教育委員会
40	岩野辺遺跡	千種町	銅鐸片	1		千種町教育委員会
41	谷山遺跡	安富町	ペンダント	1		安富町教育委員会
42	北山遺跡	龍野市	青銅塊	1		龍野市教育委員会
43	権現山 51 号墳	揖保川町 御津町	三角縁神獣鏡	5		岡山大学
44	西野山 3 号墳	赤穂市	三角縁神獣鏡	1	市指定	有年考古館
45	東徳久遺跡	南光町	土器棺	2		佐用郡教育委員会
46	東有年・沖田遺跡	赤穂市	弥生土器	2		赤穂市教育委員会
47	川島遺跡	太子町	弥生土器	1		兵庫県教育委員会
48	北山遺跡	龍野市	弥生土器	3		龍野市教育委員会
49	常全日蓮寺遺跡	太子町	土器棺	2		太子町教育委員会
50	新宮東山古墳群	龍野市	土器棺	1		龍野市教育委員会
51	有年原・田中遺跡	赤穂市	特殊器台 特殊壺 大型裝飾高杯	1 1 1	レプリカ レプリカ レプリカ	赤穂市教育委員会
52	西ノ土居墳墓群	佐用町	鏡片 管玉 刀子	2 1 1		佐用郡教育委員会
53	井の端墳墓群	上郡町	鉄剣 鉞 鉄鎌 管玉 鏡片 鉄剣 管玉 小玉 重圏文鏡	1 1 1 1 1 1 1 2 1		上郡町教育委員会
54	半田山墳墓群	揖保川町	鉄剣 鉄鏃 小型ほう製鏡 銅鏃 土器棺	1 1 1 1 2	県指定	兵庫県教育委員会
55	養久山 1 号墳	揖保川町	鉄剣 鉄鏃 鉞 四獣鏡	1 2 1 1		揖保川町教育委員会
56	権現山 51 号墳	揖保川町 御津町	特殊器台形埴輪 特殊壺形埴輪	1 1		岡山大学
57	丁瓢塚古墳	姫路市	スタンプ文土器	2		姫路市教育委員会 個人蔵
58	川島遺跡	太子町	弥生土器	12		兵庫県教育委員会
59	尾崎遺跡	龍野市	庄内襪	3		龍野市教育委員会
60	長越遺跡	姫路市	土器 鋤他	13 2		兵庫県教育委員会

4 平成16年度「震災から10周年 発信する地域文化」

1 開催趣旨

震災から10年を迎え、被災地の復興が進んでいる。この10年間、復旧復興事業に先立ち多くの埋蔵文化財が調査され、震災以前には知られていなかった新たな事実が次々に明らかになってきた。復興・復旧調査の主要な成果を概観し、阪神・神戸・明石・淡路地区の遺跡から出土した考古資料から地域の「新しい歴史像」を復元するとともに、震災をきっかけに進みはじめた地域文化の見直しの動きを検証し、これからの地域文化の発信のきっかけとする。

2 開催場所

神戸市

3 開催期間

平成17年1月16日～平成17年2月21日

4 主催等

主催：兵庫県教育委員会・神戸市教育委員会・
神戸市立博物館

共催：尼崎市教育委員会・西宮市教育委員会・芦屋市
教育委員会・伊丹市教育委員会・川西市教育委
員会・明石市教育委員会・北淡町教育委員会・
津名郡町村会

後援：神戸新聞社・NHK神戸放送局・朝日新聞社



図 -13 「発信する地域文化」チラシ

(1) 地域文化財展

「震災から10周年 発信する地域文化」

開催方法

県立考古博物館（仮称）先行ソフト事業地域文化財展と「発掘された日本列島展 2004」（文化庁主催全国巡回展）の地域展を兼ねて開催。

開催期間 平成17年1月16日～平成17年2月21日

展示場所 神戸市立博物館3階特別展示室（500㎡）

入館料 一般600円

展示内容

第1部 プロローグ「歴史は書き換えられる」

弥生時代の実年代や旧石器ねつ造問題の波紋など、歴史は常に新しい発見によって書き換えられていく、というメッセージを伝える。



図 -14 展示風景（神戸市立博物館）

第2部 テーマ展示「震災が明らかにした地域の歴史」

復旧・復興に伴う発掘調査をはじめとする近年の発掘調査成果を、地域を特徴づけるテーマ毎に展示し、新たな地域の歴史像を提示する。

テーマ1 埋もれた弥生のムラとクニ（弥生）

西摂・明石の弥生時代の実像を明らかにする。

テーマ2 前方後円墳の時代（古墳）

西摂を中心とした古墳時代の、墓・集落から、国家成立への道のりを考える。

テーマ3 海のかげはし（古墳）

淡路は「野島の海人」の伝承にあるように、海とかかわりながら生きてきた人々の島であった。古代の海人の活動を示す製塩遺跡などから海人の実像にせまり、また大陸との交渉についても考える。

テーマ4 古代国家の実像にせまる（古代）

阪神・明石・淡路地域は古代の畿内及びその周辺部であり、官衙・寺院・古代官道など律令期の遺跡が多く調査されている。これらの遺跡から律令国家の地方支配のあり方を考える。

テーマ5 瀬戸内をめぐる中世的世界（中世～近世）

阪神・淡路・明石地区は大阪湾・瀬戸内海を通る海上交通の大動脈が走り、中世における活発な物流の中心地となった。港湾遺跡などを通じて、その実像にせまる。

テーマ6 甦る近世都市の暮らし（近世）

阪神間は江戸時代以来の酒造の中心地であり、震災復興に伴い多くの酒蔵が調査され、酒蔵の構造や変遷が明らかになった。また城や城下町など、当時の武士の暮らしを知る遺跡も多く調査されている。その成果をもとに、当時の都市の実態にせまる。

第3部 エピローグ「発信する地域文化」

震災復興調査が地域に何を残し、どのような貢献をできたのか振り返る。



図 -15 藤江川添遺跡ハンドアックス



図 -16 二葉町遺跡準構造船



図 -17 勝雄経塚経筒

(2) 講演会

「阪神淡路大震災と明日の埋蔵文化財行政」

日時 平成17年1月16日(日) 午後

場所 神戸市立博物館講堂

講師 文化庁記念物課 坂井秀弥主任調査官

来場者 160人



図 -18 講演会風景

(3) シンポジウム「震災が明らかにした歴史」

日時 平成17年1月29日(土) 13:00~16:00

場所 神戸市立博物館講堂

内容:

「震災復興に伴う発掘調査」の成果により明らかになった、神戸・阪神・明石・淡路地区の歴史に焦点をあて、学術的な意義とともにその成果が地域の人々に何をもたらしたか、今後どのように活用すべきかを考える。

テーマ1 「阪神・淡路の新しい歴史像」

テーマ2 「発見がもたらしたもの」



図 -19 シンポジウム風景

プログラム:

13:00 開会挨拶 兵庫県教育長・神戸市教育長

13:10 基調講演 「書き換えられた地域像」

和田晴吾氏(立命館大学教授)

14:40~15:00 休憩

15:00 パネルディスカッション

「発見がもたらしたもの」

ナビゲータ(聞き手)

仲井雅史氏(神戸新聞社記者)

山本 誠 (兵庫県教育委員会文化財室主査)

パネラー(語り手)

和田晴吾氏(立命館大学教授) 県・神戸市文化財審議会委員

櫃本誠一氏(大手前大学教授) 当時県教委社会教育・文化財課課長補佐

禰宜田佳男氏(文化庁記念物課調査官) 当時大阪府職員・復興支援のため県に派遣

表 -6 地域文化財展「発信する地域文化」展示リスト

	遺跡名	所在地	品名	数量	指定等	所有者
1	藤江川添遺跡	明石市	ハンドアックス	1		明石市教育委員会
2	武庫庄遺跡	尼崎市	大型掘立柱建物柱根 掘方出土弥生土器 柱根埋土出土弥生土器	1 1 1		尼崎市教育委員会
3	新方遺跡	神戸市	人骨切り取り	1		神戸市教育委員会
4	北口町遺跡	西宮市	弥生土器	6		兵庫県教育委員会
5	高畑町遺跡	西宮市	弥生土器	15		西宮市教育委員会
6	白水瓢塚古墳	神戸市	石釧 車輪石 勾玉 管玉 ガラス玉	9 4 4 4 1式		神戸市教育委員会
7	住吉宮町遺跡	神戸市	馬形埴輪 人物埴輪 円筒埴輪 須恵器 馬歯	1 1 3 13 2		神戸市教育委員会
8	舞子浜遺跡	神戸市	埴輪棺	1		兵庫県教育委員会
9	高畑町遺跡	西宮市	滑石製子持勾玉 滑石製勾玉 滑石製紡錘車 須恵器	1 1 1 6		兵庫県教育委員会
10	上沢遺跡	神戸市	韓式土器 土師器	2 1		神戸市教育委員会
11	貴船神社遺跡	北淡町	丸底式製塩土器 製塩炉レブリカ 脚台式製塩土器 丸底式製塩土器 イイダコ壺 新羅陶器	14 1 7 3 10 3		北淡町教育委員会 兵庫県教育委員会
12	富島遺跡	北淡町	土馬 イイダコ壺	1 20		北淡町教育委員会 兵庫県教育委員会
13	三条九ノ坪遺跡	芦屋市	壬子年木簡 斎串	1 2	県指定	兵庫県教育委員会
14	住吉宮町	神戸市	土師器 墨書土器 土馬	1 2 1		神戸市教育委員会
15	深江北町遺跡	神戸市	木簡 軒丸瓦 円面硯 墨書土器	3 1 1 9		神戸市教育委員会
16	猪名庄遺跡	尼崎市	墨書土器 土師器 曲物	2 3 1		尼崎市教育委員会
17	志筑廃寺	津名町	軒丸瓦 軒丸瓦 平瓦	1 1 1		個人蔵 津名町教育委員会
18	芦屋廃寺	芦屋市	軒丸瓦 軒平瓦 「寺」刻印土器 墨書土器 須恵器 唐三彩 埴	2 4 4 2 1 1 1		芦屋市教育委員会
19	室内遺跡	神戸市	塑像台座 軒丸瓦 軒平瓦	1 1 1		兵庫県教育委員会
20	上沢遺跡	神戸市	井戸枠 須恵器 緑釉陶器 銅椀 銅製帯金具 軒丸瓦 獣骨	1式 3 1 1 2 1 1		神戸市教育委員会
21	大物遺跡	尼崎市	土師器 瓦器 須恵器 白磁 黄釉鉄絵盤 硯	3 5 1 3 1 1		尼崎市教育委員会
22	兵庫津遺跡	神戸市	備前焼 瀬戸・美濃	4 2		兵庫県教育委員会

			天目茶碗 青磁	1 1		
23	林崎三本松瓦窯跡群	明石市	軒丸瓦 軒平瓦 鬼瓦	5 4 2		明石市教育委員会
24	栄根寺廃寺遺跡	川西市	土師器 瓦器 軒丸瓦 軒平瓦 文字瓦 懸仏 銅鏡	6 3 2 1 1 6 1		川西市教育委員会
25	二葉町遺跡	神戸市	木製船材	2		神戸市教育委員会
26	勝雄経塚	神戸市	金銅製経筒 外容器 木製蓋 経巻	1 1 1 1	複製	兵庫県教育委員会
27	尼崎城跡	尼崎市	土師器 焼塩壺 焼塩壺蓋 唐津 瀬戸美濃 青磁 白磁 伊万里	7 5 4 2 1 1 2 3		尼崎市教育委員会
28	明石城武家屋敷跡	明石市	施釉陶器 土師質玩具人形 木製船形 焙烙 肥前染付 施釉陶器玩具猿 土師質玩具土鈴 施釉土師質灯明具 無釉陶器播鉢 施釉陶器水注 施釉陶器鍋 染付磁器皿 木製櫛 陶器土瓶 漆器椀	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1		明石市教育委員会
29	有岡城跡・伊丹郷町遺跡	伊丹市	肥前染付皿 肥前染付蓋物蓋 肥前染付蓋物 肥前白磁鉢 肥前色絵皿 肥前色絵鉢 鉄絵皿 肥前染付香炉	2 1 1 1 1 1 1 1		伊丹市教育委員会
30	御影郷古酒蔵群	神戸市	写真パネル	2		神戸市教育委員会
31	西郷古酒蔵群	神戸市	写真パネル	2		神戸市教育委員会
32	御蔵遺跡	神戸市	須恵器 土師器 緑釉陶器 富寿神宝 寛平大宝 三彩陶器 曲物 金銅製巡方	3 15 1 5 1 1 1 1 1		神戸市教育委員会
33	兵庫津遺跡	神戸市	景徳鎮仙人文大皿 肥前青磁椀形大皿 肥前磁器染付大皿 肥前油壺 無釉陶器鬢水入れ 無釉陶器お歯黒壺 銅製和鏡 銅製筭 銅製毛抜 木製櫛 炭化下駄 草履 萱材 壁材 下駄	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 4 6		神戸市教育委員会

考古博物館先行展

1 事業の概要

(1) 事業の趣旨

県立考古博物館（仮称）では、これまでの博物館の展示をこえた新たな展示を実現することを目標に掲げて整備を進めてきた。その「新しさ」とは、来館者側の視点で展示を製作することであり、展示の制作側が伝えたいことと、展示を見る側が感じ理解することの間に横たわるギャップを、いかにして埋めていくかという課題を克服していくことである。そのためには「新しい展示手法」を開発し、試行する場所が必要であった。考古博物館先行展は、試作した展示について来館者の評価を受け、考古博物館の展示に反映させていくという、「展示評価」を実践するための事業である。

またこの事業は、博物館の整備が進んでいることを、博物館が開館する地元の播磨町住民をはじめ、県民に周知するため、博物館で実際におこなう展示を「予告」し、県民の関心を高めることも大きな役割である。さらに先行展は、ボランティア養成事業によって養成した支援ボランティア“考古楽者”の参画によって実施することを基本としており、博物館の開館前にボランティアと博物館の協働を実現することも大切な役割である。

(2) 事業の経緯

考古博物館先行展は、先行ソフト事業2年目の平成15年度から実施している。平成15年度は考古博物館が整備される大中遺跡にちなみ弥生時代をテーマにして、これまでの考古学の展示にありがちな、資料偏重、解説過剰を排し、来館者が感覚的にメッセージを理解できるよう工夫をほどこした「体感！弥生時代」展を開催した。翌平成16年度からは、開催回数を年2回とし、この展示会を利用して、展示設計のための「企画段階評価」を実施した。夏季には、扱いの難しさが予想された「人骨」に対する来館者の意識を知るために、人類学的な視点から兵庫人のルーツを探る「私たちの由来 - 明石人から現代人まで -」を開催した。また春季には、前年度に調査した楠・荒田町遺跡で発見された「福原京」関連遺構を中心に、考古学的な視点で平氏政権と港・神戸のルーツを探る「春の夜の夢のごとし - 平氏と福原京の考古学 -」を開催した。この春季展で

は、展示設計で提案された展示手法を随所に用い、その効果を検証することを試みた。

なお展示会は全て播磨町郷土資料館で開催し、入場料は無料である。

表 -1 先行展のテーマと考古博物館の展示の関係

	展示のねらい	考古博物館において関連する展示
平成15年度先行展「体感！弥生時代」	弥生時代の人々の多様な生業、日々の暮らしを、言葉による解説ではなく、展示物の使用状況の再現や、関連する現代の道具との併置などにより、わかりやすく伝える。 ・「イメージ展示」の試行 ・解説キャプションの削減 ・スタンプラリーなど体験イベントの開催	ガイダンス展示 テーマ展示
平成16年夏季先行展「私たちの由来」	過去に生きた人々の「肉体」そのものである人骨を展示することにより、歴史の担い手が私たちの祖先である人間そのものであることを伝え、過去と現在のつながりを実感させる。 ・人骨資料の展示 ・ハンズオン展示の試行 ・明石人の展示 ・企画段階評価の実施	テーマ展示 「私たちの由来」
平成16年春季先行展「春の夜の夢のごとし」	「播磨における須恵器・瓦生産」、「大輪田泊における日宋貿易」、「福原京と平氏の盛衰」の3つのテーマを歴史学・考古学の研究成果を総合して展示し、各テーマを関連づけることにより、12世紀後半における時代の変革を伝える。 ・須恵器、瓦展示の試行 ・照明効果による演出の試行 ・解説試案の試行 ・新たな展示手法の試行 ・ハンズオン展示の試行 ・企画段階評価の実施	テーマ展示 「みち・であい」の内、 「福原京と大輪田の泊」

2 平成15年度「体感！弥生時代」

1 テーマ 「体感！弥生時代」

弥生時代の人々の衣食住を、最新の調査成果に基づいて復元し、体験的要素を取り入れた手法で展示する。

2 コンセプト「考古博物館コンセプトの先行実施」

考古博物館で実施を検討している展示手法や体験学習の事業を、“考古楽者”とともに先行実施し、企画・運営のノウハウを蓄積するとともに、考古博物館の整備推進を県民にPRする。

3 開催期間

平成15年7月12日～9月7日

4 主催

兵庫県教育委員会、播磨町教育委員会、
播磨町郷土資料館

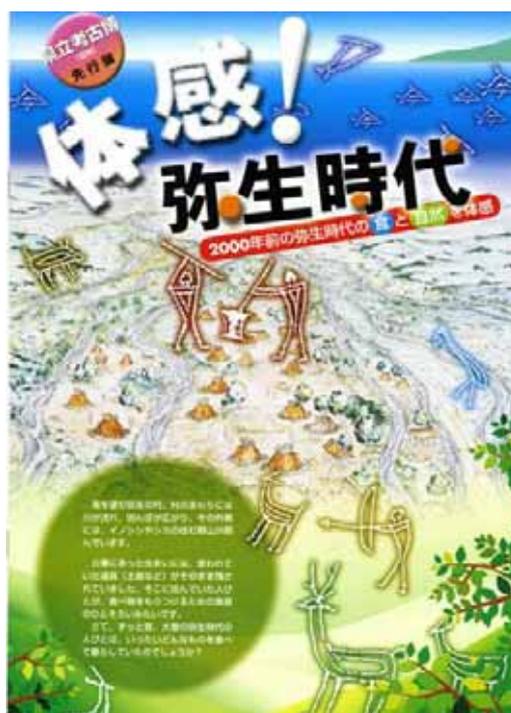


図 -1 「体感！弥生時代」チラシ

(1) 展示会「体感！弥生時代」

内容 播磨各地から出土した弥生時代の遺跡・遺物から衣食住を復元し、過去の生活を体感する。過去の暮らしを理解することにより、現在、そして未来について考えるきっかけをつくる。

会場 播磨町郷土資料館

展示コンセプト

考古資料を単に並べるだけではなく、当時の使用状況を再現するなど、「体感」をテーマにビジュアルにわかりやすく展示する。

展示内容

1 弥生時代の暮らし

玉津田中遺跡の焼失住居出土一括資料から、弥生時代の人々の暮らしぶりを想像する。

2 弥生時代の漁労

弥生時代の漁労具、出土した魚骨などから、弥生時代の漁労を展示する。

3 弥生時代の狩猟

石鏃などの狩猟具、出土した獣骨などから、弥生時代の狩猟を展示する。

4 弥生時代の農耕

弥生時代の農具などから、弥生時代の農耕を展示する。

5 大中遺跡の調査成果

平成14年度に実施した第19次調査の成果を、発掘に参加した考古楽者の手で展示する。



図 -2 展示風景

(2) フォーラム「体感！弥生時代」

内容 最先端の弥生時代の研究成果や大中遺跡の調査成果をわかりやすく解説するとともに、過去の大中遺跡の調査に携わった関係者を招き考古学の楽しさについて語り合う。

日時 平成15年8月31日(日)

13:00~16:30

会場 播磨町中央公民館大ホール



図 -3 フォーラム風景

プログラム

- 0:30 受付
- 13:00 開会
- 13:00~13:05 挨拶 平岡憲昭埋蔵文化財調査事務所所長
- 13:05~14:15 講演「弥生時代への誘い」
工楽善通大阪府立狭山池博物館館長
- 14:15~14:45 調査成果報告「大中遺跡を掘る(大中夏の陣2002)」
種定淳介埋蔵文化財調査事務所主査
- 14:45~15:00 休憩
- 15:00~16:25 座談会「考古学は楽しい」
工楽善通氏(大阪府立狭山池博物館館長)
上田哲也氏(元東洋大学姫路高等学校教諭)
浅原重利氏(播磨町文化財保護審議会会長)
藤池昭之氏(考古楽倶楽部)
溝口 操氏(考古楽倶楽部)
種定淳介氏(埋蔵文化財調査事務所)
- 16:25~16:30 挨拶 大辻裕彦播磨町教育長
- 16:30 閉会

(3) 大中遺跡体験スタンプラリー

内容 先行展期間中の土曜日に古代の村・郷土資料館において、主に子どもを対象にスタンプラリーを開催した。6カ所のチェックポイントを設け、各ポイントで古代体験をおこなった。

実施日 7/19・7/26・8/2・8/23・8/30・
9/6



図 -4 スタンプラリー・シート

表 -2 スタンプラリー各チェックポイントでの体験

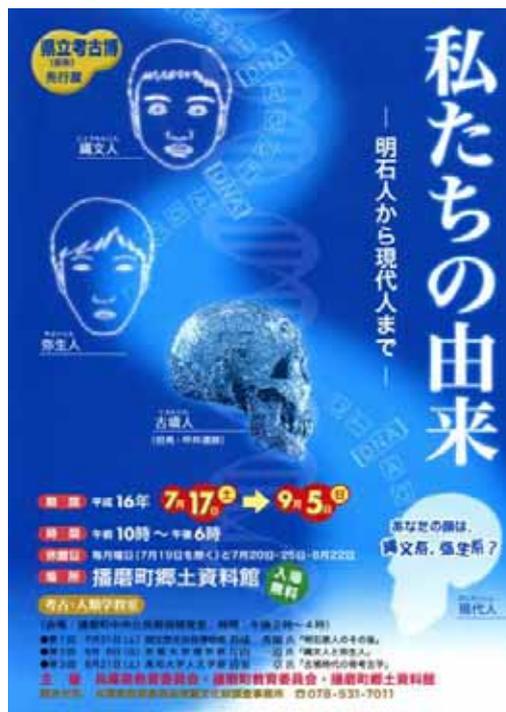
	テーマ	場所	内容
1	郷土資料館で展示を見よう!	播磨町郷土資料館 展示室	播磨町郷土資料館で「体感！弥生時代」展を見学する。
2	南公園で実が食べられる木を探そう!	大中古代の村南地区	南地区でカシ・シイなどの食用植物を探す。
3	赤米の田んぼで石臼丁に触れよう!	大中古代の村南地区	南地区の体験水田で石臼丁を使ってみる。
4	住居跡で石のナイフの切れ味を試そう!	大中古代の村北地区	北地区の遺構復元で、サヌカイト製の石器を使ってみる。
5	復元住居跡で土笛を吹こう!	大中古代の村北地区	北地区の復元住居内で土笛を吹いてみる。
6	遺跡の発掘調査現場を見学しよう!	大中古代の村北地区	北地区の発掘調査現場を見学する。

表 -3 先行展「体感！弥生時代」展示品リスト

	遺跡名	所在地	品名	数量	指定等	所有者
1	玉津田中遺跡	神戸市	SB40001 出土弥生土器	5		兵庫県教育委員会
2	玉津田中遺跡	神戸市	SH50001 出土弥生土器	21		兵庫県教育委員会
3	美乃利遺跡	加古川市	土錘	1		兵庫県教育委員会
4	大中遺跡	播磨町	土錘	30		播磨町教育委員会
5	表山遺跡	神戸市	釣り針	1		兵庫県教育委員会
6	玉津田中遺跡	神戸市	やす 網杵 魚骨	3 2 4		兵庫県教育委員会
7	玉津田中遺跡	神戸市	イイダコ壺 タコ壺	63 3		兵庫県教育委員会
8			海上がりのタコ壺	1 式		北淡町歴史民俗資料館
9	玉津田中遺跡	神戸市	石鏃	5		兵庫県教育委員会
10	美乃利遺跡	加古川市	石鏃	16		兵庫県教育委員会
11	玉津田中遺跡	神戸市	獣骨（イノシシ・シカ）	3		兵庫県教育委員会
12			現生標本（イノシシ）	1		
13	貝谷遺跡	三木市	絵画土器	1		兵庫県教育委員会
14	玉津田中遺跡	神戸市	絵画土器	3		兵庫県教育委員会
15	玉津田中遺跡	神戸市	植物遺体 ドングリ イチイガシ モモ ヤマモモ ヒョウタン エビヅル ノブドウ サンショウ マメ クルミ 椰子 石皿 叩石	1 式		兵庫県教育委員会
16	玉津田中遺跡	神戸市	鋤 鍬 掘り具	1 2 1		兵庫県教育委員会
17	玉津田中遺跡	神戸市	木製穂摘具 打製石庖丁 磨製石庖丁	3 2 1		兵庫県教育委員会
18	七日市遺跡	春日町	磨製石庖丁			兵庫県教育委員会
19	玉津田中遺跡	神戸市	竪杵 臼 匙 杓子 容器 弥生土器 炭化米	1 1 3 6 2 3 1 式		兵庫県教育委員会
20	大中遺跡	播磨町	第 19 次調査出土遺物	1 式		兵庫県教育委員会

3 平成16年度夏季先行展「私たちの由来」

- 1 テーマ 「私たちの由来 - 明石人から現代人まで - 」
考古博物館の展示テーマのひとつとして計画している「私たちの由来 - 人 - 」の展示を先行的に実施する。
- 2 コンセプト 土器や石器など「モノ」に偏りがちな考古資料の展示を見直し、歴史の主役は「モノ」を作り、使った「人」であることを、人骨を主とした考古資料から展示する。
- 3 開催期間 平成16年7月17日(土)～9月5日(日)
- 4 会場 播磨町郷土資料館
- 5 主催 兵庫県教育委員会、播磨町教育委員会、播磨町郷土資料館



(1) 展示会「私たちの由来 - 明石人から現代人まで」

展示内容

第 部 はるかなる「明石人」

- 1 「日本列島への道」
- 2 「発見の経緯・二つの学説の間で・再発見の成果」
- 3 「兵庫県下最古のムラ」

第 部 「骨考古学」から見る過去と未来

- 1 「骨」のツボ(出土した骨から何がわかるのですか)
- 2 「私たちの由来」
変化する骨
あなたの顔は「縄文人系」、「渡来弥生人系」
兵庫県内の出土人骨

- 3 「考古楽倶楽部」私たちが掘りました

第 部 史跡大中遺跡発掘調査(第20次)報告

図 -5 「私たちの由来」チラシ



図 -6 展示風景

(2) 講演会「考古・人類学教室」

会場 播磨町中央公民館視聴覚室

時間 14:00～16:00

内容

- 第1回 7月31日(土) 「明石原人のその後」
国立歴史民俗博物館教授 春成秀爾氏
- 第2回 8月8日(日) 「縄文人と弥生人」
京都大学大学院教授 片山一道氏
- 第3回 8月21日(土) 「古墳時代の骨考古学」
高知大学助教授 清家 章氏



図 -7 春成先生の講演会

講演会「考古・人類学教室」講演項目

第1回 「明石原人のその後」 講師：国立歴史民俗博物館教授 春成秀爾氏

- 1 はじめに
- 2 明石原人の発見
- 3 明石原人の否定
- 4 再発掘
- 5 明石原人の現在
- 6 明石と日本人の起源

第2回 「縄文人と弥生人」 講師：京都大学大学院教授 片山一道氏

- 1 日本列島最初の人類
- 2 日本列島の人類の歴史
- 3 旧石器・縄文人
- 4 弥生人
- 5 古墳人
- 6 弥生人渡来説への疑問
- 7 文化の変化に伴う形質の変化
- 8 縄文人、弥生人の顔の復元について

第3回 「古墳時代の骨考古学」 講師：高知大学助教授 清家 章氏

- 1 はじめに
- 2 古人骨から何がわかるのか
- 3 古墳被葬者の親族関係をさぐる
- 4 古墳の被葬者について
- 5 人骨から女性史を調べる

表 -4 先行展「体感！弥生時代」展示リスト

	遺跡名	所在地	品名	数量	指定等	所有者
1			現代人全身骨格	1		明石市立文化博物館
2			チンパンジーの足跡	1		神戸市立王子動物園
3	ラエトリ遺跡	タンザニア	足跡	1		京都大学理学部
4			人類アフリカからの道	1		
5			人類の進化系統樹	1		
6			猿人～新人頭骨模型	8		明石市立文化博物館
7	西八木海岸	明石市	明石人寛骨模型	1		県立歴史博物館
8	西八木海岸	明石市	写真パネル	1		国立歴史民俗博物館
9			猿人～現代人寛骨模型	5		明石市立文化博物館
10			直良信夫写真	1		直良三樹子
11			直良の経歴	1		明石市立文化博物館
12			直良の報告	1		兵庫県教育委員会
13			新聞記事	1		佐藤光俊
14			長谷部言人の報告	1		明石市立文化博物館
15	西八木遺跡	明石市	再発掘調査風景写真	1		国立歴史民俗博物館
			調査時の地層写真	1		
			木製品写真	1		
16			二つの学説	1		国立歴史民俗博物館
17	藤江川添遺跡	明石市	ハンドアックス	1		明石市立文化博物館
			写真	1		
18	金取遺跡	岩手県	石器写真	1		宮守村教育委員会
19			東アジアのハンドアックス分布図	1		
20			日本の化石人骨分布図	1		

21	七日市遺跡	春日町	旧石器	8		兵庫県教育委員会
22	瀬戸内海		ナウマン象化石	2		明石市立文化博物館
23			ナウマン象解体想像図	1		兵庫県教育委員会
24			港川人全身骨格写真	1		東京大学総合研究博物館
25			全身骨格図	1		片山一道
26	新方遺跡	神戸市	13号人骨	1		神戸市教育委員会
27	玉津田中遺跡	神戸市	44号人骨	1		兵庫県教育委員会
28	日笠山貝塚	高砂市	縄文人頭骨レプリカ	1		播磨町郷土資料館
29	妙音寺洞穴	埼玉県	縄文人頭骨写真	1		埼玉県埋蔵文化財センター
30			縄文人の復元顔	1		IPA 教育用画像素材集
31			縄文人と渡来系弥生人の頭骨横顔図	1		松村博文
32	大開遺跡	神戸市	縄文系弥生土器 弥生土器壺 石棒	1 1 1		神戸市教育委員会
33	口酒井遺跡	伊丹市	縄文系弥生土器	1		伊丹市教育委員会
34	北青木遺跡	神戸市	石棒	1		神戸市教育委員会
35	東武庫遺跡	尼崎市	松菊里系壺	1	県指定	兵庫県教育委員会
36	大友遺跡	佐賀県	縄文系弥生人頭骨写真	1		土井ヶ浜人類学ミュージアム
37	土井ヶ浜遺跡	山口県	渡来系弥生人頭骨写真	1		土井ヶ浜人類学ミュージアム
38			渡来系弥生人の復元顔	1		IPA 教育用画像素材集
39	市之郷遺跡	姫路市	韓式土器	6		兵庫県教育委員会
40	坪井遺跡	出石町	人骨出土状況写真 頭骨写真 復元顔	1 1 1		兵庫県教育委員会
41	亀田遺跡	太子町	分銅形土製品	1		兵庫県教育委員会
42	白沢5号窯	加古川市	陶製人形	1		兵庫県教育委員会
43	袴狭遺跡	出石町	木製人形	1		兵庫県教育委員会
44	佃遺跡	東浦町	動物骨・土器	6		兵庫県教育委員会
45	長谷貝塚	豊岡市	貝	3		兵庫県教育委員会
46			ドングリ			
47			縄文カレンダー			小林達雄
48	玉津田中遺跡	神戸市	炭化米・土器	2		兵庫県教育委員会
49			赤米・黒米			
50			将軍家慶の頭骨写真	1		東京大学出版会
51			江戸時代庶民の頭骨	1		東京大学出版会
52			現代人の食物	2		レストランやまざき
53	垂水日向遺跡	神戸市	縄文人の足跡石膏 縄文人の足跡パネル	2 1		神戸市教育委員会
54	高松町遺跡	西宮市	弥生人の足跡	2		兵庫県教育委員会
55	志知川沖田南遺跡	三原町	古墳人の足跡	2		兵庫県教育委員会
56	入佐川遺跡	出石町	足跡写真	1		兵庫県教育委員会
57	加都遺跡	和田山町	足跡写真	1		兵庫県教育委員会
58			体験用足跡	6		神戸市教育委員会 兵庫県教育委員会
59			縄文人と渡来系弥生人の顔立ち比較表	1		
60	新方遺跡	神戸市	12・13号人骨写真	1		神戸市教育委員会
61	玉津田中遺跡	神戸市	44号人骨写真	1		兵庫県教育委員会
62	大中遺跡	播磨町	弥生土器 遺跡写真	8 7		兵庫県教育委員会

4 平成16年度春季先行展「春の夜の夢のごとし」

- 1 テーマ
神戸市楠荒田町遺跡で福原京の一部と考えられる遺構が見つかるなど、現在話題になっている平氏政権の成立までの過程を、その経済的基盤であった摂津・播磨の考古資料をもとに考える。
- 2 コンセプト
考古博物館の展示設計で提案されている展示手法を試行し、その有効性を確認するために展示調査を実施する。
- 3 期間
平成17年2月19日(土)～3月21日(月)
- 4 会場
播磨町郷土資料館
- 5 主催等
主催：兵庫県教育委員会・播磨町教育委員会・播磨町郷土資料館
共催：神戸大学文学部



図 -8 「春の夜の夢のごとし」チラシ

(1) 展示会

「春の夜の夢のごとし - 平清盛と福原京の考古学 - 」

展示構成

- プロローグ 春の夜の夢のごとし
- 第 部 清盛前史 - 院政と播磨国 -
須恵器、瓦などの播磨の窯業生産を通して、院政と播磨国との深い関わりを示す。
- 1 「院の近臣」と伊勢平氏
2 都へ運ばれた播磨国の瓦
- 第 部 平氏と「日宋貿易」
輸入陶磁器や宋銭など、日宋貿易の交易品により、平清盛が改修した大輪田泊を中心とした平安時代末期の海上交通の繁栄を示す。
- 1 平清盛と瀬戸内航路
2 日宋貿易と「大輪田泊」
- 第 部 夢の都「福原京(宮)」
神戸大学医学部構内での最新の発掘調査成果を中心に、「福原京」の実像へせまる考古資料を展示する。
- 1 まぼろしの福原京・よみがえる福原京
- エピローグ 夢の都を求めて



図 -9 展示風景



図 -10 展示風景

展示手法の試行

この展示会では考古博物館で実施する展示手法の試行をおこない、展示評価によってその効果を検証した。

表 -5 試行した手法

項目	内容
1 こども向けガイダンスシートの作成	通常の展示図録とは別に、イラストや写真を多様したガイダンスペーパーを各テーマ毎に作成して配布した。
2 問いかけキャプションの設置	見学者が展示内容について考えるきっかけをつくるために、展示資料の横に「どうして・・・なのだろう？」という問いかけをおこなうキャプションを設置した。
3 親子解説の設置	親子連れを対象に、親がこどもに展示内容を説明するたすけとなる解説を設置した。
4 ファイバー照明による演出	陶磁器など、特に重要性を強調したい資料に対し、ファイバー照明による演出をおこなった。
5 床面展示	展示室の床面に大のぼしにした遺構写真パネルを設置した。
6 ハンズオン展示	瓦スタンプ、瓦合わせ、瓦パズルの3種のハンズオンキットを考古楽者と共同で製作した。



図 -11 ガイダンスシート



図 -13 ファイバー照明演出



図 -14 床面展示

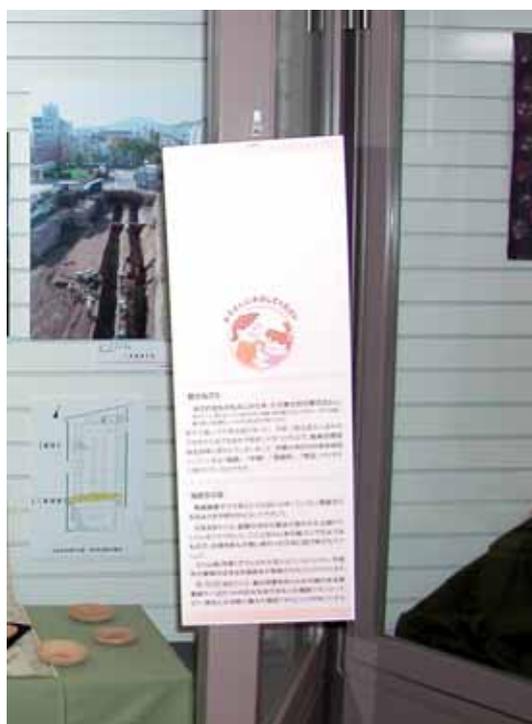


図 -12 親子解説



図 -15 瓦スタンプ

(2) 先行学習会・見学会

内容 先行展の内容を支援ボランティア“考古楽者”に理解していただくために、学習会と現地見学会をおこなう。

対象 考古楽者

日時 平成17年2月11日(金・祝日)

10:00~16:30

場所 埋蔵文化財調査事務所会議室・平氏関連史跡(神戸市中央区・兵庫区)

10:00 集合

10:30~11:45 学習会「平清盛と福原京」

講師:文化財室山下史朗

12:45 見学会出発

楠荒田町遺跡(神戸大学病院構内) 平頼盛山荘跡(荒田八幡宮境内) 祇園遺跡、平野祇園神社 雪見御所跡(湊山小学校) 熊野神社

14:30 バスで移動

清盛塚 兵庫津界限 平清盛廟(能福寺)

16:30 解散



図 -16 先行見学会
(荒田八幡神社境内)

(3) シンポジウム「福原(和田)京」の謎を解く

趣旨 平氏の拠点であった「福原京」の実像に、考古学・文献史学の最新の研究成果から迫る。

日時 平成17年3月13日(日)

13:00~17:00

場所 播磨町中央公民館視聴覚室

プログラム

13:00 開会挨拶

13:10~13:40 「福原京を語る」

岡田章一氏(兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所主査)

13:40~14:10 「平氏の考古学」

鋤柄俊夫氏(同志社大学歴史資料館助教授)

14:10~14:40 「院政と平氏政権」

元木泰雄氏(京都大学大学院教授)

14:40~15:10 「福原京と大輪田泊」

高橋昌明氏(神戸大学文学部教授)

15:10~15:25 休憩

15:25~16:55 シンポジウム

パネリスト:高橋昌明氏(神戸大学文学部教授)

元木泰雄氏(京都大学大学院教授)

鋤柄俊夫氏(同志社大学歴史資料館助教授)

岡田章一氏(兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所主査)

司会 :山下史朗(兵庫県教育委員会文化財室主査)



図 -17 シンポジウム
(パネルディスカッション)

表 -6 先行展「春の夜の夢のごとし」展示品リスト

	遺跡名	所在地	品名	数量	指定等	所有者
1			平家物語文禄本	2		県立図書館
2	袴狭遺跡	出石町	琵琶腹板	1		出石町教育委員会
			琵琶復元写真	1		
3			天子摂関御影(平清盛肖像画)写真	1		宮内庁三の丸尚蔵館
4	楠荒田町遺跡	神戸市	柱穴跡剥ぎ取り	1		兵庫県教育委員会
5			天皇家と平氏の系図	1		
6			平氏関係略年表	1		
7	尊勝寺跡	京都市	播磨系軒丸瓦	2		京都市考古資料館
			播磨系軒平瓦	2		
			阿弥陀堂跡写真	1		(財)京都市埋蔵文化財研究所
8	神出窯跡群	神戸市	軒丸瓦・軒平瓦	4		兵庫県教育委員会
			窯跡写真	1		
9	久留美窯跡群	三木市	軒丸瓦・軒平瓦	4		兵庫県教育委員会
			窯跡写真	1		
10	林崎三本松窯跡群	明石市	軒丸瓦・軒平瓦	2		明石市立文化博物館
			窯跡写真	1		
11			瓦の生産地と供給先	1		兵庫県教育委員会
12	神出窯跡群	神戸市	須恵器	63		兵庫県教育委員会
			窯跡写真	1		
13	魚住窯跡群	明石市	須恵器襷	3		兵庫県教育委員会
14			鎌倉時代の大型海船復元模型写真	1		(財)船の科学館
15			厳島神社境内写真	2		
16			海上がり須恵器鉢	3		明石市立文化博物館
17	兵庫津遺跡	神戸市	丹波焼襷	1		兵庫県教育委員会
			航空写真	1		神戸市教育委員会
			大輪田泊石椋写真	1		
18	古網干遺跡	姫路市	輸入陶磁器	9		姫路市教育委員会
19	大物遺跡	尼崎市	輸入陶磁器	7		尼崎市教育委員会
			土師器椀・皿	13		
			経石	5		
20	上板井経塚	篠山市	和鏡	2	県指定	兵庫県教育委員会
			青白磁蓋付合子	1		
			遺構写真	1		
21	南台遺跡	三田市	備蓄銭	3		兵庫県教育委員会
			須恵器襷	1		
			備蓄銭埋納状況写真	1		
22	草谷遺跡	稲美町	備蓄銭	63		稲美町教育委員会
23			「平頼盛山荘址」の碑写真	1		兵庫県教育委員会
24	楠・荒田町遺跡	神戸市	軒丸瓦	1		兵庫県教育委員会

			軒平瓦	1		
			輸入陶磁器	2		
			土師器皿	10		
			二重濠跡写真	1		
			建物跡写真	1		
25	祇園遺跡	神戸市	山城系軒丸瓦	1		神戸市教育委員会
			山城系軒平瓦	1		
			播磨系軒丸瓦	1		
			播磨系軒平瓦	1		
			玳瑁蓋天目小椀	1		
			渥美焼甕	1		
			園池遺構写真	1		
26			「雪見御所旧跡」の碑写真	1		
27	伝雪御所遺跡	神戸市	軒平瓦	1		神戸市教育委員会
			土師器皿	1		
			土師器皿	4		県立歴史博物館
28	玉津田中遺跡	神戸市	輸入陶磁器	4		兵庫県教育委員会
			土師器皿	3		
			鬼瓦	1		
			軒丸瓦	1		
			軒平瓦	1		
			呪符木簡	1		
			船形	1		
			園池遺構写真	1		
29	鳥羽離宮跡	京都市	播磨産瓦	3		京都市考古資料館
			土師器皿	4		
			輸入陶磁器	3		
			庭園遺構写真	1		(財)京都市埋蔵文化財研究所
			復元イラスト図	1		
30			福原(和田)京の推定範囲	1		
31			清盛塚写真	1		
32			平清盛構想の福原(和田)京 想定位置図	1		
33			現在の神戸市荒田町周辺航 空写真	1		兵庫県教育委員会
34			甲冑復元品	1式		県立歴史博物館

地域文化財学習支援事業

1 事業の概要

(1) 事業の趣旨

文化財を学校における地域の歴史学習や総合的な学習の素材として活用し、児童生徒が地域の歴史について正しく理解し、地域に誇りと愛着を持つことを促進するために、教員と共同で学習プログラムを開発してモデル授業をおこなう。

(2) 事業の経緯

兵庫県教育委員会では平成14年度に県立考古博物館（仮称）の基本計画を策定したが、その中で博物館の主要な事業として学校教育との連携を掲げた。また学校教育において「総合的な学習の時間」が取り入れられ、また学習指導要領においても「地域の実態を生かした観察、調査、見学体験などの学習活動」が重視されるなど、体験的な学習の必要性が高まっていた。

このような学校教育の動きにあわせ博物館として学校教育の支援をおこなうための具体的な方策を検討するとともに、教員を対象として体験学習のノウハウを講習し、地域の文化財を学校教育の現場で活用するために事業を実施することとした。

(3) 事業の内容

地域文化財学習支援事業は、地域の文化財を活用した体験学習のあり方や、将来の考古博物館における学校利用のあり方を、教員、博物館学芸員、文化財担当職員が共同で検討する「地域文化財学習検討会」と、播磨大中国古代の村を舞台に、「古代体験」に関する講習・情報交換をおこなう「大中遺跡メッセ」のふたつの事業から構成される。

地域文化財学習検討会

県内各地にある文化財（歴史文化遺産）を様々な形で活用することにより、地域の人々の生活に欠かせないものとして地域が主体となって未来へと継承されていくという「歴史文化遺産活用構想」の基本理念に則り、その構想の中の「学舎づくり」の具体的な展開を検討することを目的とした検討会である。

考古博物館の先行ソフト事業として実施したため、その主要なテーマは考古学を素材とした体験学習が中心であるが、その他の分野の文化財の活用についても検討を

おこなった。

検討会は教育関係者（教員、指導主事）、博物館関係者（学芸員）及び県の担当者が出席しておこない、各回毎にテーマを定めて開催した。

大中遺跡メッセ

文化財を学校における地域の歴史学習や総合的な学習の素材として活用し、児童生徒が地域の歴史について正しく理解し、地域に誇りと愛着を持つことを促進するために、県立考古博物館（仮称）建設予定地の播磨町大中遺跡において、県下各地の市町教育委員会や資料館・学校等で実施している体験学習に関する情報交換や技術講習等の研修をおこなう。

第1部「古代体験フォーラム」

古代体験学習についての理論講習、実践例の報告、意見交換を行う。

・理論講習

学識者や体験学習の実践者が、体験学習の理論や、体験メニューの裏付けとなる古代技術についての研究成果について講習する。

・事例発表

体験学習の実践者が、フェスティバル会場では実施できない体験メニューの実施事例や画期的な試みなどについて発表する。

・意見交換

体験学習を学習活動の一環として実施する場合の問題などについて、参加者とともに意見交換をおこなう。

第2部「古代体験フェスティバル」

体験学習の実演、講習、情報交換をおこなう。

・体験学習の実施

参加団体等により、大中国古代の村で体験学習を実施する。

実施メニュー：土器づくり、勾玉づくり、石器づくり、織物づくり、火おこし、古代食づくりなど

・情報交換

同じ体験メニューを一カ所に集め、実施担当者ごとの手法、内容、成果を比較し、互いのノウハウを交換し、体験メニューの充実・技術の向上をはかる。

・実験、研究

新しい体験メニューの予行演習の場として、机上で企画したものを実践し、内容について参加者からの評価を受け、実用化に向けたノウハウを蓄積する。

・技術講習

これから体験学習を始めたいという希望者を対象に、技術講習を実施する。

2 平成15年度事業

(1) 地域文化財学習検討会

テーマ「古代体験学習の可能性」

地域文化財学習検討会委員

下記の学校教育、博物館関係によって、検討会を開催した。

表 -1 平成15年度委員名簿

分野	氏名	所属
学校教育関係	清水良治	県立教育研修所指導主事
	水嶋正稔	県立御影高校教諭
	水野洋子	播磨町立播磨小学校教諭
	岸本伸明	北淡町立生田小学校教諭
博物館関係	合田茂伸	西宮市郷土資料館



図 -1 検討会風景

検討会の経緯

表 -2 検討会の概要

	日時・場所	出席者	内容
第1回検討会	平成15年5月2日 (金) 14:00~16:00 埋蔵文化財調査事務所	委員:清水、水嶋、水野、 岸本、合田 事務局:平岡・種定・小 川弦(埋蔵文化財調査事 務所)山本・多賀(文化 財室)	1 年間プログラムの検討 2 大中遺跡メッセの打ち合わせ
第2回検討会	平成15年8月22日 (金)13:00~16:00 播磨町郷土資料館	委員:水嶋、水野、岸本、 合田 事務局:小川良・種定・ 小川弦(埋蔵文化財調査 事務所)多賀(文化財室)	1 大中遺跡メッセの報告 2 平成15年度播磨小学校における「総合的な学習の時間」の取り組み 3 平成15年度甲稜中学校における「社会科選択講座」の取り組み 4 古代体験学習を取り入れた学習指導案作成の打ち合わせ 5 現地見学 考古博物館先行展「体感!弥生時代」 史跡大中遺跡環境整備に伴う埋蔵文化財発掘調査
第3回検討会	平成15年11月26日 (水)8:30~16:00 播磨町立播磨小学校	委員:水嶋、水野、岸本 事務局:小川良・種定・ 小川弦(埋蔵文化財調査 事務所)山本(文化財室)	1 授業研究 播磨小学校6年生 総合学習「古代人の心にせまる!」の見学 2 意見交換
第4回検討会	平成16年2月24日 (火)14:00~16:00 埋蔵文化財調査事務所	委員:清水、水嶋、水野、 岸本、合田 事務局:苦瓜・小川良・ 種定・小川弦(埋蔵文化 財調査事務所)多賀(文 化財室)	1 県立考古博物館(仮称)基本計画について 2 平成15年度事業の検証について 3 平成16年度事業の概要について

(2) 体験学習交流会大中遺跡メッセ

プログラム

第1部 古代体験フォーラム

日時：5月10日(土)10時~16時

会場：播磨町中央公民館2階視聴覚室(加古郡播磨町東本荘)

9:30 受付

10:00 開会

10:05~10:15

趣旨説明 種定淳介(兵庫県教育委員会)

10:15~11:00

理論講習

「知識・理解の基盤を形成する体験活動

古代体験活動を事例として」

岩田一彦氏(兵庫教育大学)

11:00~11:30

事例発表1「親と子の郷土史講座における体験学習

宮水とうふ・船坂寒天・縄文クッキー」

合田茂伸氏(西宮市郷土資料館)

宮原 彩氏(西宮市郷土資料館)

11:30~12:00

事例発表2「神戸市における文化財と学校教育」

千種 浩氏(神戸市埋蔵文化財センター)

12:00~12:30 昼食・休憩

13:00~13:30

事例発表3「『貴船神社遺跡』へようこそ」

岸本伸明氏(北淡町立生田小学校)

13:30~14:00

事例発表4「七輪を使って焼き物をつくる

総合的な学習の時間」

水嶋正稔氏(県立御影高等学校)

14:00~14:15 休憩

14:15~14:45 質疑応答・意見交換

15:45~16:00 事務連絡

16:00 閉会

第2部 古代体験フェスティバル

日時：5月11日(日)10時~16時

会場：播磨大中国古代の村・播磨町郷土資料館(加古郡播磨町大中)

9:30 受付

10:00 開会

10:15~12:00

各ブースでの体験学習実演・意見交換

12:00~13:00 昼食・休憩

13:00~15:30

各ブースでの体験学習実演・意見交換

15:30~16:00

あとかたづけ

16:00 閉会



図 -2 古代体験フォーラム風景



図 -3 古代体験フェスティバル

古代体験フェスティバルの概要

表 -3 参加ブース一覧

		担当者	開始時間	1回あたり体験人数	体験所要時間	体験内容	担当者から一言
1	拓本をとろう	村上泰樹 (埋蔵文化財調査事務所)	随時開催	5人	30分	考古学でおなじみの拓本の取り方を紹介する。鏡・銭・瓦の拓本に挑戦する。	奥深いモノトーンの世界を体験してみては。
2	古代の楽器作り	深江英憲 (埋蔵文化財調査事務所)	10:00・13:00	20人	120分	発掘調査で出土した土笛をモデルに、古代の土笛を復元製作する。その土笛を吹く鳴らすことで、古代の音を体験してもらう。	土笛以外の楽器も体験できます。
3	ろう鐸をつくらう	藤池昭之 (考古楽倶楽部)	とことんコース 10:00 かんたんコース 10:00・13:00	各コース2人	とことんコース 240分 かんたんコース 120分	石膏の鋳型に溶かした蠟を流し込み、ろう鐸をつくる。	中子をつかった鋳造技術の基礎を知る。
4	古代の織物を織ってみよう	溝口操 (考古楽倶楽部)	随時開催	2人～5人	120分	厚紙を使う簡単な織物体験、織り板を使うコースターづくり、単純な機織機で原理を観察できる。原始織機で弥生時代の機織りを再現。	簡単に織物の基礎がわかる、短時間に仕上がる、安くて安全、メニューが豊富
5	勾玉を作ろう	加藤尚子 (明石市立文化博物館)	10:00・13:00	6人	120分	高麗石(こうろうせき)という軟らかい石をサンドペーパーで削って古代の装身具である勾玉を作る。石に形を描いた後、まず錐で穴をあける。その後、サンドペーパーで形に削り最後に耐水ペーパーで磨いて仕上げる。	四角い石から勾玉の形を削りだしていくことで、古代の人々がどのようにして装身具を作っていたかを体験できます。軟らかい石とサンドペーパーを用いることで比較的短い時間で完成させることができます。また多人数への対応も可能です。
6	勾玉を作ろう!	柏原正民 (埋蔵文化財調査事務所)	10:00・13:00・15:00	10人	90分	篆刻用の石材を削りだして、勾玉を作る方法を体験する。作業は石を根気よく削る単純なもの。年齢を問わず気軽に行うことが可能。単純な作業の中に、様々な「発見」が盛り込まれる。	遺跡から出てくる勾玉は、お守りとして身につけた「アクセサリー」。あの謎めいた形には様々な思いが込められています。世界に一つだけ、自分だけの勾玉を作る方法をご紹介します。昔の作り方にならいつつ、体験を共有しましょう。きっと新しい発見があるはずです。
7	大昔の食事	長濱誠司 (埋蔵文化財調査事務所)	10:00・13:00	10人	120分	土器で古代米である赤米ごはんを炊く。カマドの火もマイギリで起こす。副食は大中国古代の村で採れたドングリを焼いたもの。	土器で炊いたごはんを食べてみよう!
8	土器作り	岡本一秀 (埋蔵文化財調査事務所)	10:00	6人	300分	簡単に焼成できる粘土を使用し、形づくりから焼成までを行う。	お手軽土器作り。一日でOK。窯がいらない。
9	ドングリクッキーをつくらう	西川卓志 (西宮市立郷土資料館)	10:15・13:00・14:30	15人	60分	親子の郷土史講座で取り入れたドングリクッキーを紹介する。ドングリ粉だけではうまくクッキー状にはならないので、その他の穀物粉などの配合が決め手。そのレシピを公開する。ドングリの	ドングリクッキーを上手につくるためのマル秘レシピを公開。

						実から製粉しクッキーに焼き上げるまでのプロセスは、収穫時期の制約から写真パネルで紹介する。	
10	滑石の勾玉作り・鉛の勾玉作り・ガラスの小玉作り	森下大輔 (加東郡教育委員会)	勾玉作り 10:00・鉛勾玉 鑄造 13:00・ガラス 勾玉作り 14:30	10人	120分	滑石を削りだして勾玉を作る。鉛を溶かして鑄型に流し込み勾玉を作る。ガラスをガスバーナーで溶かして小玉をつくる。	体験は力。
11	ペーパークラフト銅鐸づくり - 栄根銅鐸をつくる -	岡野慶隆 (川西市教育委員会)	随時開催	6人	60分	明治44年に弥生時代の大規模遺跡である加茂遺跡の近くで出土した兵庫県下最大(高さ114cm)の銅鐸「栄根(さかね)銅鐸」のペーパークラフト模型(1/4)を作る。用意した型紙を切り抜き、ノリで貼り付けて作る。所要時間60分で簡単に作れる。	紙を用いた簡単な工作のため、こども用の体験学習に適している。また、型紙をコピーするだけで学校教材としても広く活用できる。さらに銅鐸の実測図があれば、全国どの銅鐸でも対応可能。
12	田下駄を作ろう - なぞの穴あき板 -	小寺誠(出石町教育委員会)	随時開催	20人	30分	古代の遺跡から出土する農具「田下駄」の紹介。横長の板に切り込み、もしくは穴が数カ所あけられており、これにひも通じて泥田の中で作業する農具。こどもたちに加工させるのは難しいので、段ボールで作り、ひもで足につけて楽しく古代人のくらしぶりを体験する。	板だけみてもこどもたちは何に使うのかわかりません。まずはそんな質問からはじめ、農作業のスケジュールや昔の人の知恵を学ぶことができます。
13	石器をつくろう	稲原昭嘉 (明石市立文化博物館)	10:00 ・ 13:00 ・ 14:30	5人	90分	近畿地方で後期旧石器時代から縄文・弥生時代にかけてまで石器の材料として主として用いられていたサヌカイトという石材を使って、石器を作ってみる。つくる道具は弓矢の先に付ける鎌で、目的の大きさまで打ち割りあとは細かく形を整えていく。最後は完成した石器を竹の棒に結わえるまでを実施する。	原始に用いた材料を実際に使って体験できます。
14	石器作り	久保弘幸 (埋蔵文化財調査事務所)	10:00 ・ 13:00 ・ 14:30	10人	90分	打製石器づくりと磨製石器(石包丁)づくりの2本立て。打製石器は石槍、石鎌の完成を目指す。まず実演。大きなサヌカイトの塊から美しい音とともに素材を剥がしていく。そして素材を整え細かな製品に完成させるまでを見せる。見学者に素材を配り、細かく打って突き刺さる石器づくりに挑戦してもらおう。完成したらゴボウを切ったり、「猪狩り」へ！ 石包丁は論より実践。簡単に原石から完成品までの工程の流れを説明した後、体験者に磨いて刃を付けて、雑草を刈ってもらおう。	かんたん！でも、ワザ見せます。

3 平成16年度事業

(1) 地域文化財学習検討会

テーマ「地域理解のための体験学習」

地域文化財学習検討会委員

下記の学校教育、博物館関係によって、検討会を開催した。

表 -4 平成16年度委員名簿

分野	氏名	所属
学校教育関係	水嶋正稔	県立御影高校教諭
	水野洋子	播磨町立播磨小学校教諭
	岸本伸明	北淡町立生田小学校教諭
博物館関係	合田茂伸	西宮市郷土資料館
	田路正幸	一宮町立歴史資料館



図 -4 検討会風景

検討会の経緯

表 -5 検討会の概要

	日時・場所	出席者	内容
第1回検討会	平成16年7月23日(金) 14:00~16:00 埋蔵文化財調査事務所	委員：水嶋、水野、岸本、 合田、田路 事務局：平岡、小川良、 種定・小川弦(埋蔵文化 財調査事務所)、多賀(文 化財室)	1 検討会の年間協議事項の検討 2 播磨町立播磨小学校での「総合的な学習の 時間」の取り組み 3 大中遺跡メッセの打ち合わせ
第2回検討会	平成16年8月18日(水) 播磨町中央公民館 平成16年8月19日(木) 播磨大中古代の村	委員：水嶋、水野、岸本、 合田、田路 事務局：小川良・種定・ 小川弦(埋蔵文化財調査 事務所)、多賀(文化財室)	1 大中遺跡メッセ ・古代体験フォーラムへの参加 水野委員、田路委員事例報告 ・古代体験フェスティバルの見学
第3回検討会	平成17年3月4日(金) 13:30~16:00 播磨町郷土資料館	委員：水嶋、水野、岸本、 合田、田路 事務局：小川良・種定・(埋 蔵文化財調査事務所)、多 賀(文化財室)	1 平成16年度地域文化財学習支援事業の総 括・検証 ・平成16年度播磨小学校における「総合的 な学習の時間」の取り組み ・兵庫県教育委員会の取り組み 2 来年度の展望と取り組みについて 3 現地見学 ・先行展「春の夜の夢のごとし」 ・博物館建設に伴う大中遺跡発掘調査

(2) 体験学習交流会 大中遺跡メッセ

プログラム

第1部 古代体験フォーラム

日時：8月18日(水)10時~16時

会場：播磨町中央公民館2階視聴覚室(加古郡播磨町東本庄)

- 9:30 受付
10:00 開会
10:05~10:15
趣旨説明 種定淳介(兵庫県教育委員会)
10:15~11:00
理論講習「学習の成立条件をつくる 古代体験の意味」
岩田一彦氏(兵庫教育大学)
11:00~11:30
事例発表1「古代人の心にせまる! 総合的な学習時間」
水野 洋子氏(播磨町立播磨小学校)
11:30~12:00
事例発表2「中学校選択教科での古代制作体験の取り組み」
高橋 誠八氏(西宮市立甲陵中学校)
12:00~12:30 昼食・休憩
13:00~13:30
事例発表3「いずし古代学習館の体験活動について」
小寺 誠氏(出石町教育委員会)
13:30~14:00
事例発表4「一宮町家原遺跡公園における体験活動について」
田路 正幸氏(一宮町立歴史資料館)
14:00~14:20
提言1「考古学と体験学習のめざすもの」
寺沢 知子氏(神戸女子大学)
14:20~14:40
提言2「考古楽倶楽部の挑戦」
藤池 昭之氏(考古楽倶楽部)
14:40~14:50 休憩
14:50~15:50 質疑応答・意見交換
15:50~16:00 事務連絡
16:00 閉会

第2部 古代体験フェスティバル

日時：8月19日(木)10時~16時

会場：播磨大中古代の村・播磨町郷土資料館
(加古郡播磨町大中)

- 9:30 受付
10:00 開会
10:15~12:00
各ブースでの体験学習実演・意見交換
12:00~13:00 昼食・休憩
13:00~15:30
各ブースでの体験学習実演・意見交換
15:30~16:00 あとかたづけ
16:00 閉会
台風の影響による暴風雨のため、午後から屋内でのみ実施。



図 -5 フォーラム風景

古代体験フォーラムLive配信

当日参加できない人のために、県立教育研修所が管理している教育情報ネットワークを使い県立学校や社会教育施設へ実験的にLive配信を行った。

日時：平成16年8月18日(水)10:00~16:00
配信方法：WindowsMediaEncoder を利用したLive配信

配信内容：動画及び音声
配信場所：県立学校、但馬文教府、淡路文化会館、
県立歴史博物館
協力：県立教育研修所・播磨町



図 -6 フェスティバル会場風景
(土器焼き)



図 -7 フェスティバル会場風景
(勾玉づくり)

古代体験フェスティバルの概要
表 -6 参加ブース一覧

		担当者	開始時間	1回あたり体験人数	体験所要時間	体験内容	担当者から一言
1	古い遺物の拓本をとってみよう	米原 敬二 (考古楽倶楽部)	10:00 ・ 13:00	5人	120分	古代の土器や瓦の文様をデザイン的な表現及び器・瓦の表面を微妙に調整した方法を拓本を使って紙に現す。	遺物の芸術的表現へのチャレンジ
2	ろう鐸をつくろう	栄木 保幸 (考古楽倶楽部)	一日コース 10:00、半日 コース 10:00 ・ 13:00	一日コ ース5 人限定 半日コ ース10 人限定	一日・半日	油粘土で12～15cm程度のミニ銅鐸の原型をつくる。石膏で覆い、外型をつくる。石膏の内側に銅鐸の模様を刻み込む。外型石膏の中子を粘土で作る。外型石膏にカリ石鹸を塗り、中子を入れ、外型と中子の間に溶かした蠟を流し込む。20～30分後に外型を外すろう鐸のできあがり。	石膏でミニ銅鐸の鑄型を作り、その内側に銅鐸の絵模様を刻み込む。一歩進めて作者のアイデアで新しいデザインを刻むのも楽しく、幅広く遊びたい。
3	粘土板ガラス絵	藤池 昭之 (考古楽倶楽部)	10:00 ・ 13:00	5人限定	2時間	「すぐやく粘土」を使用し弥生土器風の粘土板を作る。粘土板には弥生土器、埴輪などに表現されている絵模様(今回は鹿の模様)を刻み、その刻みにガラス粉を入れ高温で焼き入れを施す。弥生土器の製作試みから絵模様を刻むことで弥生土器片の創造を経験し、ガラス粉を入れて少し楽しく平成の弥生土器片へのチャレンジとしたい。	平成の弥生土器片作り
4	ガラスのまがたまを作ろう	藤池 昭之 (考古楽倶楽部)	10:00 ・ 15:00	5人限定	2時間	古代の飾りを再現する。「すぐやく粘土」で鑄型を作り通し穴も取り付け、木炭による乾燥実施後、回収したカラー瓶を粉砕して鑄型に入れ、七輪の五徳の上に水平に並べる。五徳の上下には木炭を置き、プロアーで空気を送り七輪内を1000°以上に昇温し、鑄型内のガラスを熔融させ、鑄型に沿った勾玉をつくる。バリが発生した場合は砥石と耐水ペーパーで表面を磨く。	すぐやく粘土を利用し、廃棄されるカラーガラス瓶をリサイクルできることが大きなメリットである。
5	石包丁づくり - 粘板岩をみがいてあなをあけよう -	上田健太郎 (埋蔵文化財調査事務所)	10:00 ・ 13:00	5人	2時間	遺跡から出てくる石包丁と同じ素材を使って、本物そっくりの石包丁を作る。砥石で石をみがいて、最後には石の錐で石に穴をあける。ひもを通して実際に稲や雑草を刈る。	弥生時代と同じ本物の石を使います。石を石の道具を使って加工する実感は弥生時代そのもの。そっくりに仕上げましょう。刃を研いで穴をあけひもを通したら、稲穂(雑草)刈りに出かけましょう。
6	古代の楽器作り - 土笛づくり -	深江 英憲 (埋蔵文化財調査事務所)	10:00 ・ 11:00 ・ 13:00	3人	1時間	古代の楽器として「土笛」を作る。土笛は弥生時代前期の西日本、特に日本海側の遺跡から出土しており、中国の古代楽器	色々な楽器を置いています。土笛が吹けたら必ずこの楽器も音が出るはず。

						「埴」に非常によく似ている。ここでは実際に土笛を作って、それを吹いて古代の音色を体感してもらう。	
7	土器を焼こう - 体験学習教材開発のための土器焼実験 -	村上 泰樹 (埋蔵文化財調査事務所)	随時開催	8人	1時間	古代の窯の復元と焼成実験(4種類の方法で土器を焼く) 土器作りミニ体験(アンケート)*色々な粘土で輪積み体験。粘土の適正さをさぐるためのアンケート	短時間で焼ける土器焼成実験。土器が割れる音が聞ける!
8	汗を流した後のごはんはおいしい? - 火起こしと大昔の食事 -	長濱 誠司 (埋蔵文化財調査事務所)	古代食は炊きあがりしだい試食。火起こし体験は随時開催。	なし	2時間	いろいろな火起こしの道具で火付けにチャレンジする。土器で古代米(赤米・黒米)を炊き試食する。	火起こしから炊飯まで、がんばらないとご飯が食べられない。
9	ペーパークラフト銅鐸づくり - 栄根銅鐸をつくる -	岡野 慶隆 (川西市教育委員会)	随時開催	6人	1時間	明治44年に弥生時代の大規模遺跡である加茂遺跡の近くで出土した兵庫県下最大(高さ114cm)の銅鐸「栄根(さかね)銅鐸」のペーパークラフト模型(1/4)を作る。用意した型紙を切り抜き、ノリで貼り付けて作る。所要時間60分で簡単に作れる。	紙を用いた簡単な工作のため、こども用の体験学習に適している。また、型紙をコピーするだけで学校教材としても広く活用できる。さらに銅鐸の実測図があれば、全国の銅鐸でも対応可能。
10	おさかな屋さん - 鹿角釣り針づくり -	森下 大輔 (加東郡教育委員会)	10:00	3人限定	2時間	鹿角から釣り針を作る。ただ単純に削って細くして、対象魚にあわせて魚が釣れることを念じながら製作する。	やっぱり体感!作品完成後は釣り体験でしょう!
11	滑石勾玉づくり	渡辺登志子 (考古楽倶楽部)	10:00 13:00	5人	2時間	古代人の最も愛した勾玉。宗教的、保身のお守り、アクセサリ等その目的は数多く考えられている。その勾玉づくりに雑念を捨てて無心で財物づくりに挑戦してもらいたい。	無心の創造。
12	勾玉づくり	出田 直 (神崎郡歴史民俗資料館)	10:00 13:00	10人	1時間	今ある身近な道具で古代の装飾品の勾玉をつくる。手軽に作れる中にもちょっとした道具(糸のこ・ナイフ)を使い、形を仕上げる。勾玉の形にこだわらず思い思いの作品を作ることも可能。それぞれの参加者の思いによって自分だけの作品を作ることができる。	自分だけの作品を作ります。勾玉だけにこだわらず、いろいろな形のものを作ってもらうことができます。
13	勾玉をつくる!	柏原 正民 (埋蔵文化財調査事務所)	10:00 13:00	5人	2時間	篆刻に使う「寿山石」を使った勾玉づくり。できるだけ砥石だけで形を整え、目の細かい紙ヤスリで仕上げ磨く。根気が勝負の分かれ目。	少し硬い石で作るため、苦労はしますが、仕上がりは美しく存在感もあります。ジックリ取り組んでみたい場合におすすめです。

事業結果の総括

1 事業の効果

(1) 事業効果を計る指標

県立考古博物館（仮称）の開館に向け、平成16年度までの3年間ソフト事業に取り組んできたが、これらの事業は全て一過性のイベントではなく、博物館開館を見据えた準備として戦略的に実施してきている。事業の性格上、そのアウトカムを計るのは開館時になるので、3年目の中間点を過ぎた段階でアウトプットについて検討をおこなう。

先行ソフト事業の目的は第 章で述べたように、博物館整備のPR・人材育成・事業の試行の3つであり、それぞれについて効果を的確に評価できる指標が必要となる。まず博物館整備のPR効果の指標となるのは、県民の博物館事業への関心の高まりであり、これは年度毎の事業への参加者数の推移によって評価できる。次に人材育成については、育成した人材の数とその活動成果によって評価することができるだろう。事業の試行については、先行ソフト事業を通じて取り組んできた事業に対する来館者の評価が指標となる。

(2) 事業効果の検証

博物館整備のPR

博物館整備のPRは東播磨地域を対象としたものと、県内全域を対象としたものがあるが、まず東播磨地域を対象としたものについて検証する。検証に使用する数値は、考古博物館先行展への1日あたり来場者数とする。

ただし夏季に開催した事業は1日で数千人が訪れる大中遺跡まつりの時期を挟むため、まつり開催日の人数をその他の平常時の平均人数に補正している。

表 - 1

	H15 体感！弥生 時代	H16 夏季 私たちの由 来	H16 春季 春の夜の夢 のごとし
入場者数	12,000	11,135	5,794
補正入場者数	7,143	5,252	5,794
開催日数	50	45	27
1日あたり入 場者	143	117	215

このように若干の増減はあるが、平成16年度春季展で

は多くの来場者を獲得している。この入場者数は通常の博物館では入場者数が伸びない冬期ということを考慮すると、多くの入場者があったと言えるであろう。

次に県内全域を対象としたPR効果については、地域文化財展の1日あたり入場者数によって評価する。

表 - 2

	H14 古代但馬の 王墓	H15 邪馬台国へ の道のり	H16 発信する地 域文化
入場者数	2,462	2,500	9,638
開催日数	27	16	31
1日あたり入 場者	92	157	310

地域文化財展を開催した地域や施設の事情が異なるため、単純な比較はできないが、地域文化財展への来場者は年々着実に増加している。ちなみに開催市町周辺人口と入場者数の関係は次のとおりである。平成14年度事業については現朝来市、平成15年度事業は現たつの市、平成16年度は神戸市の人口で比較する。

表 - 3

	H14 古代但馬の 王墓	H15 邪馬台国へ の道のり	H16 発信する地 域文化
入場者数	2,462	2,500	9,638
開催市町人口 (H17・2)	35,570	82,192	1,521,164
人口あたりの 入場者割合 (%)	6.9	3.0	0.6

開催期間に差があるので補正が必要であるが、朝来市・たつの市とも人口あたりかなり高率の入場者があったと言える。神戸市は入場料が有料であったことや、他の文化施設が多くあるため、他の地域に比べると入場者は極めて少ない。

このように東播磨地域においては考古博物館先行ソフト事業への関心が次第に高まってきている傾向が伺える。また地域文化財展を開催した地域では、短い開催期間にもか

かわらず比較的多くの人が展示会を訪れており、地域における関心の高まりを示すものである。

人材育成

人材育成は考古楽者養成事業と地域文化財学習支援事業がその役割を担っている。考古楽者養成事業は毎年多くの希望者が受講を申し込んでいるが、定員を設けているため4倍程度の競争率になっている。14年度～16年度までに養成した人材は合計80人になるが、このうち57名がセミナー修了後も「考古楽倶楽部」に所属して活動をおこなっている。考古楽倶楽部への参加率は毎年向上しており、セミナーを受講した成果を活かしたいと望む受講者が増加していることを示している。

セミナーの成果は毎年着実に上がっていると言える。またセミナーを修了した考古楽者の活動も活発化しており、彼らの活動は平成15年度から平成16年度にかけて約2倍に増加しており、古代体験学習へのニーズを高める効果を上げている。

考古楽者と県教委職員が共同で進めている体験学習プログラムの開発も着実に成果を上げており、平成15年度は2件、平成16年度は4件のプログラムの開発をおこない、考古博物館開館後にそなえている。

地域文化財学習支援事業については、体験学習の講習や技術交流をおこなう大中遺跡メッセへの参加者数が目安となる。これで見ると平成15年度は161人であったものが平成16年度は104人と減少している。これは平成16年度の大中遺跡メッセが台風の影響で悪天候の中実施せざるをえなかったことが大きな原因である。しかし2年間で延べ265人の参加者があり、古代体験学習への関心の高さを示すものであると考える。

また大中遺跡メッセへの参加をきっかけに学校現場で古代体験を取り入れた例(西宮市立甲稜中学校など)もあり、事業の当初の目的とした効果は着実にあがりつつあると言える。

事業の試行

考古博物館開館後に良質なソフトを来館者に提供するための工夫を全ての事業において積み重ねてきている。その中でも地域文化財展と考古博物館先行展を考古博物館開館後に実施する事業のモデルとして重視しており、地域文化財展は「ネットワーク型博物館」への試行、考古博物館先行展は「参加体験型博物館」への試行と位置づけて事業を

実施している。

平成14年度地域文化財展を実施した和田山町(現朝来市)においては、事業開催のきっかけとなった古墳時代の古墳「茶すり山古墳」が、事業の実施後に道路計画を変更することにより保存され、平成16年には国史跡に指定され、現在環境整備の計画が進められている。またこの古墳からの出土資料などを保管・展示公開するための施設として旧山東町に埋蔵文化財センターの建設が国庫補助事業として進められ、平成18年度に開館することとなっている。また但馬県民局が中心となって「南但馬歴史・文化ミュージアム構想」が立ち上げられ、茶すり山古墳や埋蔵文化財センターを核に地域振興をはかる取り組みが進められている。地域文化財展は現在進められている事業のきっかけづくりとして、所期の目的を果たしたと言える。

また平成15年度地域文化財展を実施した新宮町では、事業実施前から継続中であった国史跡新宮宮内遺跡の整備が進められており、また宮内遺跡だけでなく地域の埋蔵文化財を展示公開するための施設として、たつの市新宮歴史資料センターが整備され平成18年度に開館するととなっている。ここでも地域文化財展は、地域において埋蔵文化財への関心を高め、活用への取り組みを活性化するきっかけとしての役割を果たしている。

平成16年度地域文化財展は、震災10周年企画としてやや特殊な位置づけにはなるが、神戸・阪神を中心とした市町との連携、神戸市立博物館との連携など、ネットワークづくりという目的は達成できたと思う。

考古博物館先行展については「展示」とはどのようにあるべきかを常に意識して事業をおこなってきた。良質なソフトを提供するためには利用者からの評価を常に受ける必要があり、そのために展示評価を実施した。展示評価の詳細については次節に譲るが、利用者の率直で厳しい意見をえることができ、試行という点では十分な成果が得られている。

2 展示評価

(1) 展示評価の目的

県立考古博物館（仮称）はこれまでの展示をこえた、新しい博物館の展示のあり方を模索し、インタラクティブな要素を取り入れた参加体験型の展示を大幅に取り入れることにしている。展示製作側が一方的に情報を発信し、来館者は常に受け身であったこれまでの展示は、難しい、面白くないと敬遠され、一般の人々と博物館間のコミュニケーションを阻害している例が多い。考古博物館では、展示は来館者の学びのきっかけをつくるものと考え、どのような展示がその目的を果たすために必要なのか、まずは将来の来館者の声を聞くために展示評価を実施することとした。

展示評価は、将来の博物館のコンセプトを先行的に実施する考古博物館先行展の機会を利用し、展示テーマの立て方、その表現方法などについて調査をおこなった。調査の客観性を保証するために、展示設計の発注者（県教育委員会）設計者（㈱乃村工藝社）以外の第三者機関（ハンズ・オンプランニング）が調査を実施している。

(2) 平成16年度夏季先行展における展示評価

調査目的

夏季先行展「私たちの由来」において展示される、“明石人の寛骨”と“人骨の実物”展示を中心に、どのように利用者が展示を見ているか、受け止めているか調査することによって利用者を知り、展示計画における設計指針を得るとともに、明石人と人骨展示の扱いの基本的留意点を探る。

調査日時・場所

平成16年8月21日（土）10:30～17:00

播磨町郷土資料館

調査体制

- ・調査主体 兵庫県教育委員会
- ・調査委託 ㈱乃村工藝社
- ・調査設計・分析・報告書作成

ハンズ・オン プランニング

染川香澄・たけうちかおる・織谷仁美

小原千夏

- ・調査担当 兵庫県教育委員会

多賀茂治

㈱乃村工藝社

塚原秀敏・鮫島泰平・川上洋一・敷島志帆

ハンズ・オン プランニング

染川香澄・たけうちかおる・織谷仁美

- ・調査協力 播磨町教育委員会・播磨町郷土資料館

調査対象者

先行展に来館した子ども（小学校2年生～中学校3年生）とおとな（こどもの親世代30～40代及びシルバー世代50代後半～）

調査方法・サンプル数

- ・行動追跡調査 おとな14本、子ども8本 合計14本
- ・インタビュー調査 おとな25票、子ども13票、合計38票

- ・定点観察 明石人展示、人骨展示各4時間程度

質問内容

- ・面白かった（印象に残った・興味をもった）展示を一つ
- ・それぞれのどういうところが面白かった（印象に残った・興味をもった）か
- ・明石人の寛骨について
展示に気づいたか／展示を見た人は何だと思ったか／今まで言葉を聞いたことがあったか／今まで何を知っていたか／展示を見た人は何を得たか（例えば人に伝える時どう伝えるか）

- ・人骨の実物展示について

展示に気がついたか（本物だと認識したか）／展示を観てどんな気持ちになったか（何を感じたか）

- ・調査対象者について（学齢・年齢・性別・居住地・同行者人数・来館目的）

調査結果

1) 行動追跡調査

- ・22人中7人が明石人の展示を観ずに出て行った
- ・最も多く人が立ち止まったのは「縄文人の頭骨の化石」の展示、これに続くのが「ナウマンゾウ」「石斧」「港川人」の展示
- ・観覧時間の最長は23分、最短は2分、平均は10分
- ・立ち止まって展示を観た回数は、最多が32回、最少が5回、平均が20回
- ・現代人骨格標本は握手をしたり背比べをしたり子どもに大人気
- ・明石人の寛骨は小学校低学年以下には、それが何か全くわからない
- ・知っている風景の写真を見ると会話が弾む
- ・ナウマンゾウと恐竜の混同がみられる

2) 定点観察調査

- ・ 明石人関連展示
約3割の人が全く観なかったかちらっと観ただけ
- ・ 人骨展示
9割以上の人が観る / 全ての人の間で発話がみられた

3) インタビュー調査

- ・ 来館目的
先行展をみにきた 35%、公園にきたついで 16%、学校の自由研究 13%、体験学習 8%
- ・ 来館者居住地
加古川市 36%、明石市 18%、播磨町 14%
- ・ 最も面白かった展示
猿人～新人の頭頭模型と復顔 11 / 38、人骨 11 / 38
- ・ 明石人に気づいたか
気づいた 27 / 38、気づかなかった 11 / 38
- ・ 明石人の骨をみて何だと思ったか
骨 14 / 27 (うち腰骨と答えたのは5)
- ・ 明石人という言葉聞いたことがあるか
聞いたことない 10 / 38 (こどもは7 / 13)
- ・ 明石人について何を知っているか
明石で発見された 10 / 28、名前だけしか知らない 7 / 28
- ・ 明石人を観たことを人にどう伝えるか
特になし、言いようがない、わからない 11 / 27
- ・ 人骨に気づいたか
気づいた 34 / 38
- ・ 人骨は本物だと思ったか
思った 16 / 34、思わなかった 14 / 34
- ・ 人骨展示を観てどんな気持ちになったか
気持ち悪い、怖い 5 / 34
調査結果から

1) 展示の見方について

- ・ 利用者は自分の経験や知識の中にある何かとの比較で展示と自分の接点を見いだしている
- ・ 自分との身体的なつながりを抛り所として展示を観る。
- ・ 自分の記憶を呼び覚ます風景写真の持つ力はこどもにもおとなにも訴えかける。
- ・ なじみのある地名には多くの人が反応する。
- ・ 自分の尺度で測ることができるものが考古学の世界には少ない。だから展示から何も感じない。何かを感じて受け止めたとしても自信が持てない。

2) こどもの見方の特徴について

- ・ 小さなこどもに反応があったのは知っている言葉と五感を使った展示。
- ・ 親からの問いかけや働きかけはこどもの展示の見方を促進させる。

3) 展示手法・解説手法について

- ・ 展示室入口から部屋全体を見渡せて、部屋の広さと展示量が最初に把握できたことが、滞在時間の平均値を上げた。
- ・ 立体物は色々な角度から観たい。面白いと思った写真は近くで見たい。
- ・ 作り手が当たり前と思いこんでいることも、受け手にとってはそうでなかったり、確信を持っていないこともある。
- ・ 「レプリカ」「スケルトン」など意外に知られている専門用語があるが、やはり難しい。
- ・ ユニバーサルデザインに留意する必要がある。

4) 個別展示について

- ・ 明石人については年代が下がるにつれ認知度が低く、情報も乏しくなる。
- ・ 明石人の展示は約3割の人が観ていない。観た人も何をどう見ればいいのか接点が生まれにくい。
- ・ 人骨は考古学の展示品として大多数の人に興味深くとらえられている。
- ・ 人骨は置いてあるだけで展示を複合的に観させる力を持った展示物である。
- ・ 人骨を本物が偽物か見分けが難しいが、本物と知ると反応が大きくなる。
- ・ 本物の人骨が、なぜ、どういう経緯で発掘されたのか、何のために調査研究し展示しているのか、明確に伝える必要がある。

(3) 平成16年度春季先行展における展示評価

調査目的

春季先行展「春の夜の夢のごとし」において企画段階(利用者との展示トピックの接点を探る)を行うと同時に、その展示の一部を利用して制作途中評価(展示の有効性の検証)を行い、展示実施設計及び制作段階における指針とする。

調査日時・場所

平成17年3月5日(土) 3月6日(日)

播磨町郷土資料館

調査体制

- ・調査主体 兵庫県教育委員会
- ・調査委託 (株)乃村工藝社
- ・調査設計、分析、報告書作成

ハンズ・オン プランニング

染川香澄・たけうちかおる・織谷仁美
小原千夏

- ・調査担当 兵庫県教育委員会

多賀茂治

(株)乃村工藝社

神 剛司、塚原秀敏、鮫島泰平、辻本弘司、
敷島志帆

ハンズ・オン プランニング

染川香澄・たけうちかおる・織谷仁美
斎藤麻紀

- ・調査協力 播磨町教育委員会、播磨町郷土資料館

調査対象者

事前に協力を依頼していた播磨町周辺の小学校5年・6年生を中心とする子どもたちとその父母22組と当日来館した4組の合計26組54人。

調査方法・サンプル数

調査A（事前インタビュー調査+展示を観ながらのインタビュー調査）14組28人

調査B（行動追跡調査+観覧後のインタビュー調査）12組26人

調査内容

1)調査A インタビュー調査

- ・「みやこ」について

言葉を聞いたことがあるか/「みやこ」って何/天皇は今どこに住んでいると思うか/その前はどこに住んでいたか/京都に都があったのはいつからいつまでか

- ・平清盛について

名前を聞いたことがあるか/いつ頃の人か/清盛について知っていることは何か/清盛が遷都したことは聞いたことがあるか/どこに遷都したと思うか/神戸の福原京を聞いたことがあるか/清盛はなぜ神戸を都に選んだのか

2)調査A 展示を観ながらのインタビュー調査

- ・「都へ運ばれた瓦(播磨と京の瓦)」について

展示を観てわかったこと/2列の瓦をよく観て気づいたこと

と/グラフィックパネルは何を言いたいと思うか/展示意図は伝わったか

- ・「輸入陶磁器と国産土器」について

どれが日本製でどれが輸入品だと思うか/どうしてそう思うのか(見分けたポイント)

3)調査B 行動追跡調査

主に解説試案や須恵器や瓦などの展示がどのように利用されるか(観られる)のかを調べる

4)調査B 観覧後のインタビュー調査

- ・おとなへの質問

先行展を観て新しく得たこと/東播磨がかつて焼き物の名産地だったことを聞いたことがあるか/聞いてどう思うか/解説試案(親子解説・問いかけキャプション)に気づいたか/読んだか/文字の大きさや量は適当か/内容は分かりやすいか

- ・子どもへの質問

先行展を観て新しくわかったこと/瓦を見て何だと思うか/今までにみたことがあるか

調査結果

1)回答者属性

	父親	母親	祖母	小6	小5以下
人数	14	11	2	12	15
割合(%)	26	20	4	22	28

- ・小5以下の15人の内訳は5年生9人、4年生4人、3年生1人

2)調査A インタビュー調査結果

- ・「都」という言葉を聞いたことがありますか?

	ある	ない
おとな	14	0
子ども	12	2

- ・「都」って何でしょう?

おとな 政治の中心/今なら東京/日本の中心となる都市
子ども 人がいっぱい集まるところ/いっぱい何かがある

- ・天皇は今どこに住んでいるでしょう?

おとな 東京14/14

子ども 東京10/14、知らない3/14

- ・天皇は東京の前はどこに住んでいたか?

おとな 京都12/14

子ども 京都6/13、江戸2/13、知らない5/14

- ・京都に都があったのはいつからか?

おとな 平安時代から11/14、飛鳥時代から2/14

こども 奈良時代から3 / 14、平安時代から2 / 14、弥生時代から2 / 14、わからない3 / 14

・京都に都があったのはいつまでか？

おとな 江戸時代まで9 / 14

こども 江戸時代まで4 / 14、わからない2 / 14

・平清盛という名前を聞いたことがありますか

おとな ある14 / 14

こども ある8 / 14、ない6 / 14

・平清盛はいつ頃の人ですか？

おとな 平安時代9 / 14、鎌倉時代3 / 14

こども 平安時代3 / 8、鎌倉時代2 / 8

・平清盛について知っていることを教えてください

おとな 源平合戦で源氏に敗れた 5 / 14

平家の頭 5 / 14

わからない 2 / 14

こども 源頼朝に関係 3 / 8

平家 3 / 8

・清盛が一時、京都から都を遷したことを聞いたことがあるか？

おとな ある6 / 14、ない7 / 14

こども ある4 / 14、ない9 / 14

・清盛はどこに都を遷したと思いますか？

おとな 兵庫・神戸4 / 14、福原(京)3 / 14、

わからない4 / 14

こども 奈良6 / 14、わからない3 / 14

・神戸に福原京という都があったことを聞いたことがありますか？

おとな ある7 / 14、ない6 / 14

こども ある2 / 14、ない12 / 14

・神戸の福原京のことはいつどこで聞いたか？

おとな 歴史の授業4 / 7

こども マンガ1 / 2、本で読んだ1 / 2

・なぜ清盛は新しい都を造るのに神戸を選んだと思うか？

おとな 港がある・海上の便がよい 11 / 14

貿易ができる4 / 14

こども 海が近い4 / 14、わからない3 / 14

3) “都へ運ばれた瓦”(播磨と京の瓦)展示を観ながらのインタビュー結果

・展示を観て新しくわかったことはありますか？

おとな 昔播磨で瓦を作っていた 5 / 14

昔の瓦が出土した3 / 14

こども 瓦にマーク・絵があった4 / 14

色々な種類・形の瓦があった3 / 14

・上下2列の瓦をよく見て気づいたことはあるか？

おとな 色が違う6 / 14、模様が違う2 / 14、模様が似ている2 / 14、わからない3 / 14

こども 上の段は丸瓦と平瓦のセットになっている2 / 14、模様がにている2 / 14、わからない3 / 14

・グラフィックパネル(イラストと地図)は何が言いたかったと思うか？

おとな 瓦を作ったところと使われた場所 3 / 14

瓦を作る窯と寺の場所 2 / 14

こども お寺・神社の場所・数 3 / 14

わからない 3 / 14

・展示意図の伝わり具合の5段階評価

	おとな	こども
大変わかりやすく伝わる	0	1
ある程度は伝わる	1	2
どちらとも言えない	1	3
あまり伝わってこない	4	4
伝わってこない	8	4

・5段階評価の採点理由、改善点

おとな

イラストや図・記号で一目でわかる工夫が欲しい 8 / 14

モノと情報が結びつかない 5 / 14

字が小さすぎて読めない 5 / 14

展示意図を伝えるものがない 4 / 14

こども

イラストや記号でわかりやすくしてほしい 5 / 14

字が小さすぎる 4 / 14

ちゃんと説明書を書いてほしい 3 / 14

4) “輸入陶磁器と国産土器”展示を観ながらのインタビュー

—結果

・輸入陶磁器と国産土器の見分け

	全部見分けた	一部誤認があった	かなり誤認があった	全く見分けられなかった
おとな	1	9	4	0
こども	1	8	4	1

・輸入品と国産品を見分けたポイント

おとな ツヤのあるなし・釉薬のあるなし 13 / 14

キャプションを見て 4 / 14

こども ツヤのあるなし 10 / 14

キャプションを見て 3 / 14

5)調査B 行動追跡調査結果

・観覧時間

最長 47 分、最短 3 分、平均 19 分

・立ち止まった回数

最多 38 回、最少 4 回、平均 19 回

・立ち止まって観た展示・観なかった展示

最多は「輸入陶磁器と国産土器」の 35 回、最少はプロローグのグラフィック

6)調査B 観覧後のインタビュー調査結果

・新しく得たこと、印象に残った展示

おとな 輸入品と国産の焼き物の違い 2 / 13

播磨の瓦を全国に運んでいった 2 / 13

新しく建つ考古博物館の様子 2 / 14

こども 昔のお金 4 / 14

輸入品と国産の焼き物の違い 3 / 14

神戸の空撮写真 3 / 14

・東播磨がかつて焼き物の大産地だったと聞いたことがあるか？

おとな ある 1 / 13、ない 12 / 13

・東播磨がかつて焼き物の大産地だったと聞いてどう思うか？（おとなのみ）

すごい、なぜ継承されなかったのか、意外だった 6 / 13

ああそうかという程度 1 / 13

・解説試案（親子解説や問いかけキャプション）に気づいたか？（おとなのみ）

	気づいた	気づかなかった
親子解説	7	6
問いかけキャプション	7	6

・解説試案を読んだか？

	読んだ	読まなかった
親子解説	7	0
問いかけキャプション	6	1

・解説試案はこどもと一緒に楽しく展示を観るのに役立ちましたか？

たいへん役だった 4 / 8、まあまあ役に立った 4 / 8

・解説試案は展示を理解するのに役だったか？

たいへん役だった 4 / 8、まあまあ役だった 2 / 8、どちらとも言えない 2 / 8

・解説試案に対する意見

文字をもっと大きく 9 / 13、ふりがなを符って 3 / 13

・（こどもに瓦を見せて）これは何？

「瓦」という言葉が出た 6 / 13、屋根の上の丸いやつ 4 / 13、お坊さんが読む石 1 / 8、わからない 2 / 13

・（こどもに瓦を見せて）今まで同じようなものを観たことがあるか？

ある 6 / 13、ない 7 / 54

6)先行展の展示や考古博物館に対する意見・要望

・展示のつながりや意図がわかりにくいので、もっとわかりやすくしてほしい

・体験、経験ができることを作ってほしい

・触れるようにしてほしい

調査結果から

・通史概念や知識は学校で習ったかどうかの影響が大きい。

・歴史認識はおとなでもあいまいであるが、キーワードが記憶を揺さぶり、関連した言葉や情報が出てくる。

・歴史には戦争の時代がいくつもあって、戦国時代も幕末もごっちゃになる。

・「都」の定義は誰も知らない。

・神戸に「都」があったことはあまりに知られていない。

・神戸に都を移した理由はこどもにとって難しい。

・神戸を都に選んだ理由は、おとなは今の神戸から想像できる。

・おとなもこどもも、自分のつながりの中で展示を観ている。

・今回も親のファシリテーションの様子が見られたと同時に、親が話しかけたところ以外には興味を示さないこどもが多く、親子で一緒にまわる時の会話の重要性が再確認された。

・熱心な親が主導権を握るとじっくり見てまわるが、こどもが主導権を握ると観覧時間も短めになり、参加型の展示に偏りがちであった。

・展示のわかりにくさや展示に対する興味のなさを口にした親が多かった。

・展示物どうしの関連性を自分の力だけで結びつけるのはおとなでも難しく、こどもには至難の業である。

・展示の意味や意図を考える利用者に混乱や誤解をもたらしてはいけない。

・瓦の展示に強い誘引力はなかった。会話も発展せず、観覧者に働きかける力も乏しかった。

・昔の播磨産瓦と今の瓦産地を結びつけて考える人が多い。

- ・瓦が屋根の上に乗っているものであるという認識は多くの子どもが持っている。
- ・子どもが興味を示したのは瓦の文様や種類だった。
- ・古い瓦はみんな同じように見える。
- ・専門家から見て当たり前のことでも、利用者にとっては当たり前ではない。
- ・輸入陶磁器の展示には多くの人が立ち止まったが、保持力は強くなかった。
- ・昔は大陸の方が技術が進んでいたという認識は一部にあるが、輸入陶磁器と国産土器の違いはキャプションの補助がないと見分けは難しい。
- ・展示の解釈に必要なキーとなる情報は、整理せいで大きく訴えかけて欲しい。
- ・はっきり書かれたタイトルが、概念をつかむ時には役立つ。伝えたいことが一目でわかるように、記号や図やイラストで工夫が必要である。
- ・子どもだけではなく、おとなもふりがなが必要である。
- ・解説は少しでも見づらいと、読んでもらえない。
- ・親子解説は存在に気づいた親には好評だった。
- ・イラスト入り問いかけキャプションは、子どもにもおとなにも好評だった。
- ・せつかくの解説も設置位置が悪いと役に立たない。
- ・ガイダンスペーパーは少し見て情報をつかむだけで、その場でじっくりとは読まない。

(4) 展示評価のまとめ

先行展を素材とした展示評価では、展示意図の伝達が大きな課題となって浮上してきた。平成16年度夏季先行展では、展示のメインとして設定した「明石人」の展示を、かなりの人々が気づきもせずに通り過ぎた。作り手側のメッセージを受け取ってもらうためには、まずは展示に誘引能力が必要であり、その工夫が不十分であったことを痛感させられる光景であった。

また平成16年度秋季先行展では、播磨産瓦の都への流通をテーマとした展示が不評であった。これは瓦の流通を实物資料を使って伝えようという展示意図が、説明不足のため観覧者には十分に伝わらなかったことが原因であった。

このように多くの課題があった一方で、春季先行展で試行した問いかけキャプションや親子解説などは、その有効性を確認できたという成果もあった。課題については、調査終了後に対応策を検討し、考古博物館の本番の展示では

問題点を解消するための工夫をほどこすことにしている。設計段階で対応した事項は以下のとおりである。

- 利用者の記憶や経験とつながるように身近な情報と合わせ、多重な手法で展示を展開する
- ・利用者が自分と関わりをもちながら展示を観れるように地域の航空写真、地図、地名を入れる。
- ・資料の重要性や背景となる情報を伝えるためにジオラマ、音響による臨場感のある演出や解説をする。
- ・地域の風景写真を多く用いる。利用者が展示への接点を持ちやすくするために「実物」「解説」「ハンズオン」が三位一体となった総合的な展示をおこなう。
- ・リアリティのある実物、関連情報を伝える解説、参加体験性の高いハンズオンからなら総合的な展示をおこなう。
- ・利用者の興味を喚起する参加体験性の高いハンズオンを設置する。読みやすく理解しやすい表現の解説をおこなう。
- ・知識の関連づけをするためのキーワードを入れる。
- ・解釈に必要な情報は流れがわかるようにして大きく表示する。
- ・小学校高学年の指導要領にない漢字にはルビをふる。
- ・内容を一目で把握できるようにキャッチコピーを入れる。
- ・読みやすい文字サイズとする。
- ・理解しやすいように記号、図、イラストを用いる。解説、参加体験型展示、展示ケース等の仕様の仕様を決定するにあたり、より多くの人が利用しやすいユニバーサル化の基準を設定する。利用者を物語りで誘うトピック展示を取り入れる。おとなと子どもの会話に役立つ「親子解説」や、マンガと問いかけで利用者の興味を引き出す「問いかけキャプション」を導入する。

展示実施設計に盛り込んだこれらの事項については、施工段階（制作前・制作中・制作後の3段階）で制作途中評価をおこない、さらにその有効性を検証しながら展示を完成させていくこととしている。

3 ソフト事業における今後の課題

(1) 事業計画策定へ向けて

平成 14 年度から県立考古博物館（仮称）の先行ソフト事業を開始し、平成 16 年度まで 3 年間にわたり事業を実施し、現在（平成 18 年 3 月）4 年目の事業を実施中である。平成 17 年度からは県立考古博物館（仮称）の開館時に実施する事業計画の策定をおこなうために、「県立考古博物館（仮称）事業計画策定委員会」（会長：石野博信徳島文理大学教授）を開催し、事業の検討を進めている。検討を進めるにあたってはこれまで実施してきた先行ソフト事業の成果をふまえることを基本としており、事業計画策定にあたって検討が必要な事項をまとめて先行ソフト事業の成果の総括としておく。

(2) 事業計画策定にあたる課題

展示事業

地域文化財展、考古博物館先行展の 2 事業を通じて、県内の市町と連携して博物館の外で実施する「ネットワーク型展示」と、博物館と来館者との間に双方向性をもったコミュニケーションを成立させる「参加体験型展示」の実践に取り組んだが、先行ソフト事業を通じていくつかの課題が見えてきた。

県立考古博物館（仮称）は、館内での活動にとどまらず、県内各地の遺跡や遺物をサテライト展示物と位置づけた活動をおこなうネットワーク型博物館を目指しているが、その成否の鍵を握るのが市町との連携である。地域文化財展では展示をはじめとする事業を実施することにより、地域での埋蔵文化財の保護活用の機運を高めるきっかけづくりをおこない、ハード・ソフト両面である程度目標を達成しているが、今後の課題としては市町が実施する事業との継続的な連携のあり方があげられる。

地域文化財展を実施した地域のうち、南但馬地域では「南但馬歴史・文化ミュージアム推進計画」が進められ、県教育委員会は埋蔵文化財センター整備への補助、史跡整備への補助などのハード整備への支援と、ボランティア育成や展示などのソフト面の整備への支援を実施しているが、西播磨地域ではたつの市新宮歴史資料センター（埋蔵文化財センター）の整備への支援を実施しているものの、ソフト面での支援や連携はまだ具体化していない。

今後、南但馬地域での取り組みを継続して実施し、その成果やノウハウをもって、同様な取り組みを県下全域で展

開していく必要がある。

考古博物館先行展で実践を試みた「参加体験型展示」は、展示評価で利用者の厳しい評価にさらされ、博物館における展示のあり方について改めて考え直す必要を痛感させられた。来館者とのコミュニケーションを確保し、展示側の意図を伝え、学びを喚起するためには、資料の選択・説明の手法・ディスプレイの手法など、総合的な取り組みが必要となる。博物館開館にあたっては制作途中評価を実施して常設展示をより良質なものにすることとしているが、さらに開館後も利用者調査を継続して改善を図る必要がある。また企画展の実施にあたっては、事前の企画段階評価、開催中の展示評価を実施して、展示の質の向上をはかり、利用者本位の展示を目指すことが必要となるであろう。

体験学習事業

県立考古博物館（仮称）をこれまでの博物館とは一線を画した「参加体験型博物館」として整備するため、先行ソフト事業においては体験学習事業を基幹事業と位置づけて実施してきた。3 年間の取り組みにより、実施可能なプログラムは増加し、また考古楽者養成事業によって、体験学習のサポートをおこなう人材の育成も順調に進んでいる。

しかしいまだ体験学習によって何を伝えるのか、体験学習に対する理論的な意義付けが不十分なままである。ものづくりの楽しさや、ゲーム的な楽しさの次にくる、地域文化への理解、誇り、愛着の醸成まではまだ至っていない。「兵庫県ならでは」という地域文化を背景とした古代体験プログラムの整備が今後の大きな課題となるであろう。

学習支援事業

考古楽者養成事業で生涯学習、地域文化財学習支援事業で学校教育の各分野の支援に取り組んできたが、それぞれの分野で今後の課題が明らかになっている。

考古楽者養成事業では博物館支援ボランティアにとどまらず地域の文化財保護活用のリーダーとなるべき人材の育成をおこなっているが、修了者の居住地が東播磨中心であり、その活動は地域的に限定されている。県立博物館として県下全域を対象として事業を実施する必要があるが、その拠点となる施設が播磨町にある以上、県内全域への展開のためには、考古楽者養成事業と同趣旨の事業をより広域で展開することが必要となる。地域文化財展におけるボランティア育成など、考古楽者養成事業の地域展開を視野に入れた事業を実施しているが、県内全域をカバーするには

まだほど遠い状況である。博物館開館後は、市町とも連携して地域に密着した人材を育成する必要があるだろう。

また養成セミナー修了者と博物館との関係をどのように位置づけるのかも今後の課題である。博物館ボランティアとしての活動と、博物館の枠外での主体的な活動を両立させながら、考古学者の学習意欲を高め、活動を活性化させるための継続的な支援のあり方を模索する必要がある。

地域文化財学習支援事業では、学校の教員をターゲットにして、体験学習の普及を目指してきたが、体験学習交流会大中遺跡メッセへの教員の参加は低調なままである。平成16年度からは夏休み期間中の平日に開催日を移したが、さほどの効果は認められなかった。県立教育研修所の研修プログラムへの位置づけ、学校への広報を強化するなど、教員の参加を促進する取り組みをおこなっているが、効果はあがっていない。

学校教育における博物館利用の下地をつくるためにも、学校教育との連携は重要な課題であり今後の努力が必要である。

調査研究事業

先行ソフト事業の中で、明確に調査研究事業として位置づけた事業はないが、考古学者養成事業の中で実施した大中遺跡の発掘調査によって史跡大中遺跡の全容解明をめざすなど、博物館開館後の調査研究事業への継続を視野に入れた事業を実施してきた。

今後は総合的・学際的な体制での調査研究を実施するよう、研究課題の設定や体制の整備を進めてゆくことが課題となる。

収集保存事業

収集保存についても先行ソフト事業の中で明確に位置づけた事業はおこなっていない。本格的な事業の開始は、施設・体制が整う開館後になるが、地域文化財展の開催によって掘り起こした地域に眠る重要な考古資料について、保存処理の支援や複製品の製作などをおこなうなど、事業の開始に向けた準備を進める必要がある。

史跡公園・資料館等ネットワーク事業

地域文化財展の開催を通じて、市町と連携して県内の史跡公園・遺跡をサテライトとして活用するとともに、資料館等との連携を進めてきた。この事業については南但馬地域で大きな成果をあげているが、今後県内全域にどのようにネットワークを広げていくか課題となる。市町との双方

向的な連携に向けて、地域文化財展開催地以外の市町との調整が課題となる。

広報・情報発信事業

地域文化財展や先行展の開催によって、考古博物館の開館を県民に周知する取り組みをおこなってきているが、平成16年度までの事業については、ポスター・チラシの配布、記者発表などの手段でしか広報をおこなっていない。今後は開館に向けて、より効果的な広報活動を実施していく必要がある。

また情報発信については埋蔵文化財調査事務所のホームページで、先行ソフト事業の広報をおこなってきたが、平成17年度からは考古博物館開設準備室のホームページを立ち上げて、より詳細な情報を提供するようにしている。

現在は東播磨地域に偏りがちな広報宣伝活動を、開館を視野に入れ県内全域及び県外にまで拡大し、さらに広報宣伝・情報発信を強化することが課題となる。

(3) まとめ

3年間の先行ソフト事業は、兵庫県教育委員会がはじめて実施した大規模な埋蔵文化財の普及活動である。これまで蓄積されてきた埋蔵文化財の発掘調査の成果をいかにして県民に発信していくのか、手探りで取り組んできた事業である。その中で、考古学者養成事業のような他に例のないオリジナルな事業を実施したり、先行展において実験的な展示をおこなうなど、これまでの博物館や埋蔵文化財センターの活動をこえた事業を実施してきた。

先行ソフト事業の成果については、3年間だけの活動で評価するのではなく、あくまで開館時点で評価されるべきものであると考えるが、3年目の総括としては、いまだ十分とは言い難いが、事業開始前よりも着実に埋蔵文化財の活用は進んだといえる。

今後はさらに新たな取り組みに挑戦し、平成19年秋には、県民から支持される事業を展開する魅力ある博物館を開館することをめざしていく。

県立考古博物館（仮称）先行ソフト事業実施報告書
平成14年度～平成16年度事業

発行日 平成18年3月31日
編集発行 兵庫県教育委員会文化財室
〒650-8567 神戸市中央区下山手通5丁目10番1号
TEL 078-341-7711

